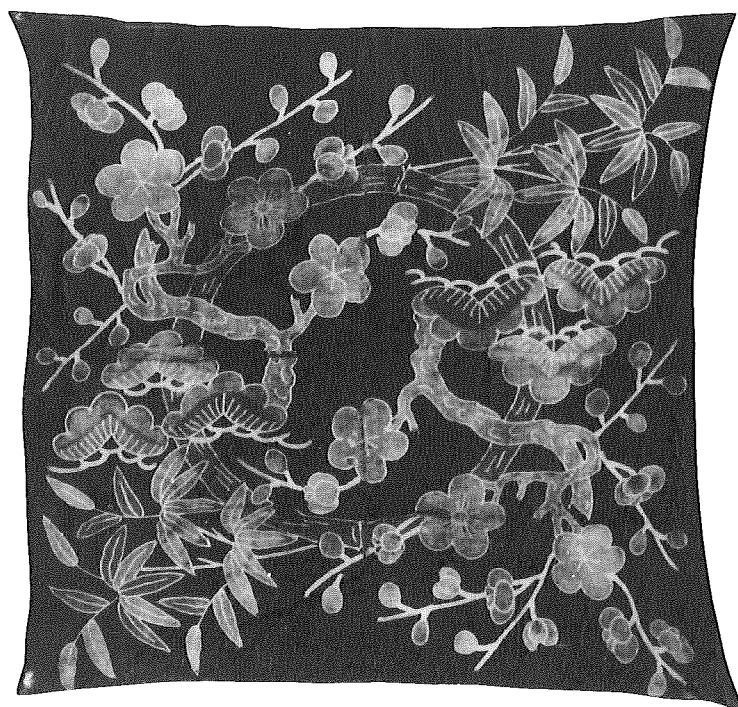


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 22



1989

沖縄県立博物館

序

昭和63年度（昭和63年4月1日～平成元年3月31日）の事業を報告します。

5月には、前年度に寄贈・購入・収集した資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。また、夏・秋には次の二つの特別展を開催し好評を得ました。

1. 特別展「ヤンバルの自然」

山や川、そしてそこに生きている動物や植物を通して、ヤンバルの自然の素晴らしさを紹介。

2. 特別展「三線名器100挺展」

数ある三線（さんしん）のなかから名器をえりすぐって100挺展示し、沖縄文化のユニークさを紹介。

そのほかに、第12回移動博物館を与那国町で開催し、すっかり定着した博物館文化講座も第161回から第174回まで開催しました。

平成元年度は、「インドネシアの更紗展」と「大アンデス文明展」という二つの特別展の開催を予定しています。今後とも特別展や資料の寄贈・購入・収集等を積極的にすすめ、館の充実をはかりたいと思いますので、尚一層のご助言、ご協力をお願いいたします。

平成元年6月

沖縄県立博物館長 大 城 宗 清

目 次

序	館長 大 城 宗 清
I 概 要	
1 沿 革	1
2 施設・設備	3
3 予 算	5
4 組 織	6
II 入館者数	
1 入館者数	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者	12
III 展示活動	
1 常設展	14
2 特別展	17
3 企画展	21
4 移動博物館	23
IV 教育普及活動	
1 博物館文化講座	27
2 刊行物	29
V 調査研究活動	
1 調査研究	30
2 著作論文	34
VI 収蔵資料	
1 収蔵資料現在高	37
2 昭和63年度収蔵資料および目録	37
3 所蔵国県指定文化財	40
VII その他の活動	
1 資料貸出	41
2 燻蒸処理	41
3 沖縄県博物館協会	42
4 沖縄県立博物館友の会	42
VIII 日誌抄	44
IX 関係条例規則抄録	50

※表紙写真：麻紺地松竹梅文様紅型風呂敷

I 概 要

1 沿 革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

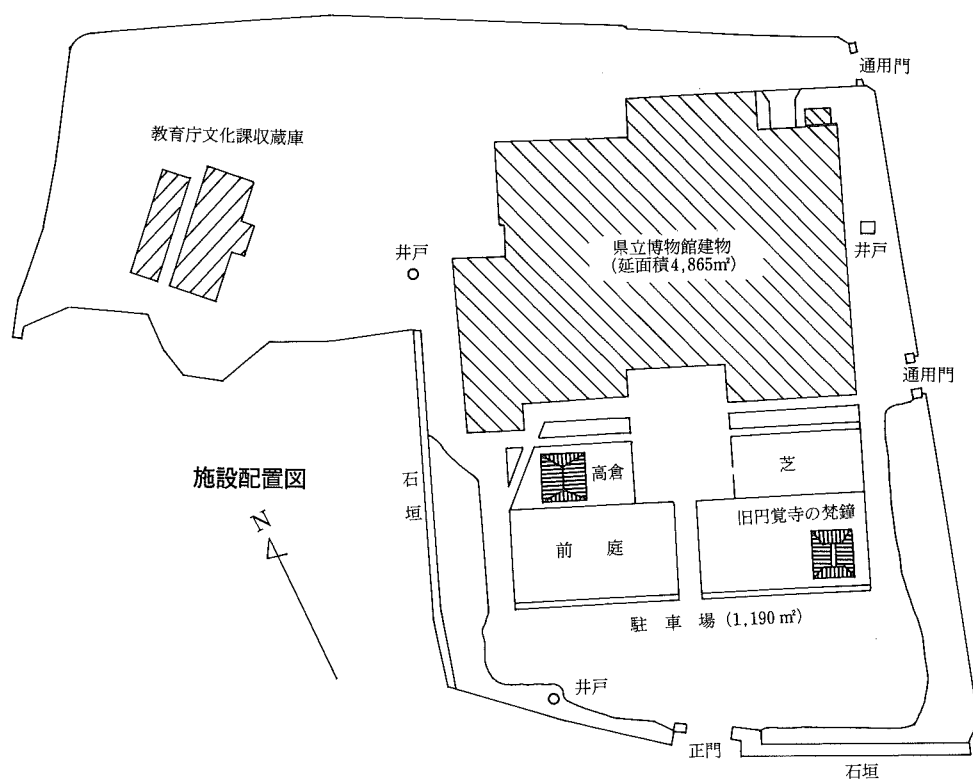
-
- | | |
|-------------|---|
| 昭和21年（1946） | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年（1947） | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年（1953） | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年（1955） | 9月、琉球政府発足にともない首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年（1965） | この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。 |
| 昭和41年（1966） | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年（1972） | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年（1973） | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年（1976） | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年（1980） | 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐龍展」開催。 |

- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年（1982） 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年（1983） 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年（1985） 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薫コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画——物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展——ある首里士族の400年」開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」開催する。

歴 代 館 長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	〔首里博物館〕 豊平 良顕（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）
原田 貞吉（昭和28・3～30・5） 山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕 金城増太郎（昭和33・9～36・12） 大城 知善（昭和37・2～44・11） 外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕 大城徳次郎（昭和56・4～58・3） 大城 立裕（昭和58・4～61・3） 大城 宗清（昭和61・4～ ）	

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267m ²
●建物のべ面積	4,865m ²
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積	1,590m ²
1階	632
2階	958
●ロビー面積	256m ²
●収蔵庫面積	677m ²
●駐車場面積	1,190m ²
●庭園面積	1,612m ²
●講堂	632m ²
客席数630席(1階240)	

●空調機能力

ヒートポンプ式チリングユニット	125,000kcal/h×2機
エアハンドリングユニット	7機
パッケージ型エアコン	
56,000kcal/h×1機	
28,000kcal/h×1機	
20,000kcal/h×2機	
8,400kcal/h×1機	

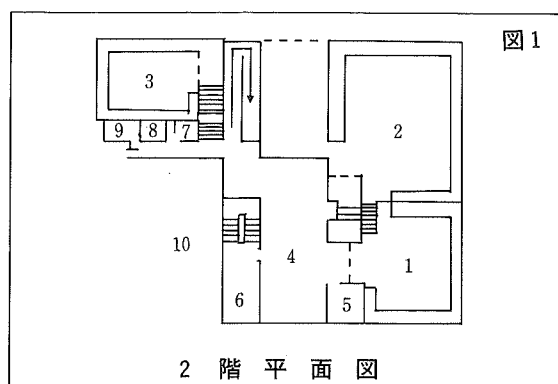
●変電室

電灯	1Φ3W 30KVA×1機
電灯・動力	3Φ4W 100KVA×1機
動力	3Φ3W 250KVA×1機

●契約電力

契約電力	235kw
------	-------

建物平面図および室名・面積



< 2 階 >

番 号	室 名	
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436
3	漆器收藏室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室 (女)	6
8	化粧室 (男)	11
9	空調室	12
10	ホール中 2 階	61

< 1 階 >

番 号	室 名	
1	事務室	115m ²
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	收藏庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器收藏庫	11
8	中庭	152
9	厨子嚮收藏庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室 (女)	7
13	化粧室 (男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	首里城正殿模型	18
17	講堂 (客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室 (女)	21
26	化粧室 (男)	17
27	案内コーナー・友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

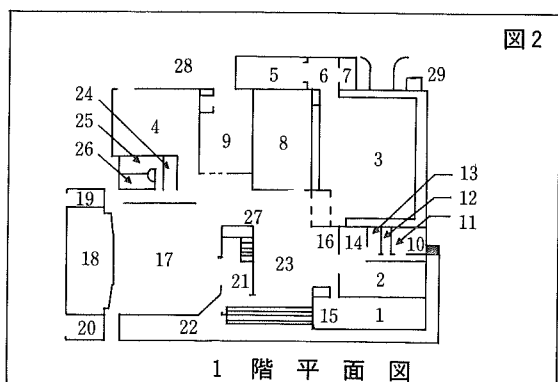
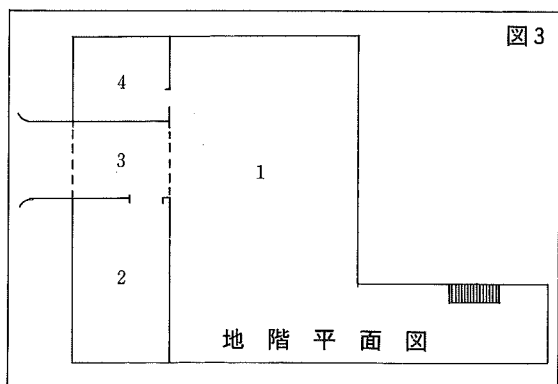


図3



< 地 階 >

番 号	室 名	
1	收藏庫	285m ²
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

昭和63年度博物館費（決算）

単位：円

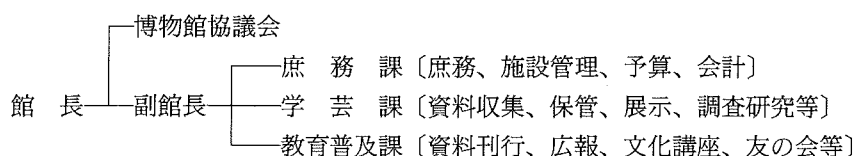
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報 酬	131,100	0	131,100
賃 金	0	244,800	244,800
報 償 費	220,000	407,000	627,000
旅 費	1,448,186	2,222,040	3,670,226
（普通旅費）	(1,448,186)	(2,165,000)	(3,613,186)
需 用 費	19,731,408	8,448,980	28,180,388
消 耗 品 費	1,155,310	932,980	2,088,290
燃 料 費	37,953	0	37,953
（食料費）	(95,000)	(75,000)	(170,000)
印刷製本費	1,704,900	5,855,000	7,559,900
光 熱 水 費	14,836,425	0	14,836,425
修 繕 費	1,901,820	1,586,000	3,487,820
役 務 費	1,331,833	3,149,990	4,481,823
通信運搬費	863,100	2,902,000	3,765,100
手 数 料	444,263	0	444,263
筆耕翻訳料	5,000	0	5,000
保 險 料	19,470	247,990	267,460
委 託 料	13,177,000	6,439,000	19,616,000
使用料及び賃借費	145,000	0	145,000
工 事 請 負 費	8,700,000	0	8,700,000
備 品 購 入 費	5,867,734	1,477,000	7,344,734
負担金補助及交付金	64,000	0	64,000
公 課 費	18,900	0	18,900
合 計	50,835,161	22,388,810	73,223,971

昭和63年度歳入状況（決算）

科目名	内 訳	常 設 展	特 別 展
博 物 館 使 用 料		9,587,640	10,048,830
建 物 使 用 料		32,525	0
雑 入		78,870	0
小 計		9,699,035	10,048,830
合 計		19,747,865	

4 組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

平成元年4月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	大 城 宗 清	博物館業務の総理に関する事。
副 館 長	西 平 守 勝	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関する事。
庶 務 課 長	大 城 正 勝	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関する事。
主 任	玉代勢 理 子	予算決算、会計事務に関する事。
主 任	新 崎 文 子	歳入、庶務、人事、福利厚生に関する事。
技 師	名嘉真 盛 和	施設設備の保守管理に関する事。
学 芸 課 長	知 念 勇	学芸業務の統轄及び考古資料に関する事。
主 任 専 門 員	金 武 正 紀	博物館資料の保存及び考古資料に関する事。
充 指 導 主 事	千木良 芳 範	総合調査調整、写真撮影、沖博協及び自然史に関する事。
学 芸 員 補	与那嶺 一 子	博物館資料の受入れ、整理分類及び工芸に関する事。
専 門 員	玉 城 朝 健	博物館資料の整理分類及び考古資料に関する事。
教育普及課長	当 真 嗣 一	教育普及業務の統轄及び歴史資料に関する事。
充 指 導 主 事	高 良 松 一	博物館学習、団体見学の調整及び美術に関する事。
充 指 導 主 事	津波古 聡	教育普及、移動博物館、写真撮影及び工芸に関する事。
専 門 員	大 城 學	教育普及、文化講座、講演会及び民俗に関する事。

非 常 勤 職 員 (委嘱業務)	氏 名	担 当 業 務
教育普及補助員	上 原 敏 子	展示の解説。
監 視	西 平 節 子	受付及び監視に関する事。
〃	東 美智子	〃 〃
〃	小橋川 敏 子	監視に関する事。
〃	西 平 勝 子	〃 〃
〃	喜屋武 トシ子	〃 〃
〃	比 嘉 春 子	〃 〃
清 掃 員	渡慶次 柴 宝	清掃に関する事。

博物館友の会職員	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓 子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

平成元年4月1日現在

職 員	氏 名	摘 要
< 転 出 >		
副 館 長	上江洲 均	県文化課課長補佐へ
教育普及課長	日 越 国 昭	県文化課文化財係長へ
主 査	富 島 壯 英	県立図書館主任専門員へ
技 師	平 田 典 夫	県総務部消防防災課技師へ
< 転 入 >		
副 館 長	西 平 守 勝	実習船運営事務所長より
主幹兼教育普及課長	当 真 嗣 一	県文化課主幹兼文化財係長より
専 門 員	玉 城 朝 健	県文化課専門員より
技 師	名嘉真 盛 和	県総務部管財課技師より

(4) 博物館協議会名簿

平成元年4月1日現在

	委 員 名	所 属 ・ 身 分	備 考
学 識 経 験 者	安次富 長 昭	琉大教育学部教授、美術工芸 (会 長)	(県)文 保 審 委 員 (国)伝 産 審 議 委 員 (県)文保委(専門委員)
	野 原 朝 秀	〃 地学	
	外 間 正 幸	元県立博物館長、美術工芸 (副会長)	
	平 敷 令 治	冲国大文学部教授、民俗学	(県)文 保 審 委 員
	嵩 元 政 秀	興南中学教頭、考古学	(県)文 保 審 委 員 沖 縄 考 古 学 会 長
学 校 教 育	島 袋 文 雄	安謝小学校長	
	宮 良 信 賢	南風原高等学校長	
社 会 教 育	高 良 房 子	沖縄県婦人連合会理事	
	屋 田 直 勝	沖縄県PTA連合会長	
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員	

任期：昭和63年3月11日～平成2年3月10日

II 入館者数

1. 入館者数 (昭和63年4月1日～平成元年3月31日、特別展等を含む)

月別入館者数

内訳 年月日		個 人 入 館 者 数			団 体 入 館 者 数			入 館 者 数			開館日数	1 日平均 入館者数			
		大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人			高 大 生	小 中 生	合 計
昭和63年	4 月	3,980 (66)	405 (7)	505	4,890 (73)	512 (149)	833	1,420	2,765 (149)	4,492 (215)	1,238 (7)	1,925 (7)	7,655 (222)	25	315
	5 月	3,440 (123)	334 (3)	271	4,045 (126)	503 (253)	228	1,568 (124)	2,299 (377)	3,943 (376)	562 (3)	1,839 (124)	6,344 (503)	23	298
	6 月	2,915 (67)	96	242	3,253 (67)	576 (89)	323	662	1,561 (89)	3,491 (156)	419	904	4,814 (156)	22	226
	7 月	2,577 (100)	273	410	3,260 (100)	947 (114)	983	372	2,302 (114)	3,524 (214)	1,256	782	5,562 (214)	20	289
	8 月	8,117 (54)	1,654	4,524	14,295 (54)	603 (393)	445	433 (1,172)	1,481 (1,565)	8,720 (447)	2,099	4,957 (1,172)	15,776 (1,619)	23	756
	9 月	4,643 (45)	954	955	6,552 (45)	466 (419)	1,121	842 (396)	2,429 (815)	5,109 (464)	2,075	1,797 (396)	8,981 (860)	24	410
	10月	4,211 (152)	358	841 (1)	5,410 (153)	482 (735)	5,042	5,406 (117)	10,930 (852)	4,693 (887)	5,400	6,247 (118)	16,340 (1,005)	25	694
	11月	8,762 (187)	263	682	9,707 (187)	1,596 (932)	4,455	4,608 (23)	10,659 (955)	10,358 (1,119)	4,718	5,290 (23)	20,366 (1,142)	25	860
	12月	2,265 (69)	104	104	2,473 (69)	368 (304)	5,205	450	6,023 (304)	2,633 (373)	5,309	554	8,496 (373)	23	386
平成元年	1 月	2,805 (117)	94	193	3,092 (117)	379 (57)	27	24	430 (57)	3,184 (174)	121	217	3,522 (174)	22	168
	2 月	3,656 (95)	328	259	4,243 (95)	737 (260)	1,062	628 (75)	2,427 (335)	4,393 (355)	1,390	887 (75)	6,670 (430)	22	323
	3 月	5,494 (128)	1,398	653 (4)	7,545 (132)	910 (148)	1,512	1,086 (29)	3,508 (177)	6,404 (276)	2,910	1,739 (33)	11,053 (309)	26	437
合 計		52,865 (1,203)	6,261 (10)	9,639 (5)	68,765 (1,218)	8,079 (3,853)	21,236 (0)	17,499 (1,936)	46,814 (5,789)	60,944 (5,056)	27,497 (10)	27,138 (1,941)	115,579 (7,007)		
総 合 計		54,068	6,271	9,644	69,983	11,932	21,236	19,435	52,603	66,000	27,507	29,079	122,586		

() 内は無料入館者

曜日別入館者数

内 訳 曜 日	個人入館者数				団体入館者数				入館者総計				開館 日数	1日平均入館者数		
	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計		個人	団体	合 計
月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火	6,759 (158)	1,002	1,195 (3)	8,956 (161)	905 (635)	4,020	2,339 (359)	7,264 (994)	7,664 (793)	5,022	3,534 (362)	16,220 (1,155)	45	203	184	386
水	6,808 (137)	915	1,049	8,772 (137)	820 (665)	4,060	3,487 (280)	8,367 (945)	7,628 (802)	4,975	4,536 (280)	17,139 (1,082)	45	198	207	405
木	8,511 (175)	940 (3)	1,137 (2)	10,588 (180)	1,236 (709)	3,186	3,300 (186)	7,722 (895)	9,747 (884)	4,126 (3)	4,437 (188)	18,310 (1,075)	45	239	191	431
金	7,340 (189)	1,002	965	9,307 (189)	1,031 (912)	3,518	4,346 (265)	8,895 (1,177)	8,371 (1,101)	4,520	5,311 (265)	18,202 (1,366)	47	202	214	416
土	9,456 (323)	1,184 (7)	1,570	12,210 (330)	1,578 (536)	3,816	2,992 (280)	8,386 (816)	11,034 (859)	5,000 (7)	4,562 (280)	20,596 (1,146)	49	256	188	444
日	13,991 (221)	1,218	3,723	18,932 (221)	2,509 (396)	2,636	1,035 (566)	6,180 (962)	16,500 (617)	3,854	4,758 (566)	25,112 (1,183)	49	391	146	537
合 計	52,865 (1,203)	6,261 (10)	9,639 (5)	68,765 (1,218)	8,079 (3,853)	21,236	17,499 (1,936)	46,814 (5,789)	60,944 (5,056)	27,497 (10)	27,138 (1,941)	115,579 (7,007)				
総合計	54,068	6,271	9,644	69,983	11,932	21,236	19,435	52,603	66,000	27,507	29,079	122,586	280	34	188	438

() 内は無料入館者

団体入館者数

内 訳 年 月		県 内								県 外								国 外								総 計	
		大 人		高 大 生		小 中 生		計	大 人		高 大 生		小 中 生		計	大 人		高 大 生		小 中 生		計					
		団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員		団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員		団 体 数	人 員	団 体 数	人 員	団 体 数	人 員		団 体 数	人 員			
昭和63年 4月	6	169	2	66	9	1,056	17	1,291	9	238	5	767	3	322	17	1,327	4	105	—	2	42	6	147	40	2,765		
5月	12	431	—	12	802	24	1,233	3	38	1	207	8	766	12	1,011	1	34	1	21	—	2	55	38	2,299			
6月	12	348	3	214	10	453	25	1,015	6	166	3	109	4	209	13	484	1	62	—	—	1	62	39	1,561			
7月	10	353	—	4	202	14	555	5	556	8	983	1	166	14	1,705	2	38	—	1	4	3	42	31	2,302			
8月	18	426	3	243	12	324	33	993	5	119	4	171	3	96	12	386	3	58	1	31	1	13	5	102	50	1,481	
9月	8	236	15	756	10	741	33	1,733	4	186	7	365	1	101	12	652	2	44	—	—	2	44	47	2,429			
10月	4	107	6	906	35	4,655	45	5,668	14	375	20	4,109	6	751	40	5,235	—	1	27	—	1	27	86	10,930			
11月	22	928	5	377	46	4,608	73	5,913	16	648	19	4,078	—	35	4,726	1	20	—	—	1	20	109	10,659				
12月	6	214	—	6	445	12	659	5	154	26	5,205	1	5	32	5,364	—	—	—	—	—	—	44	6,023				
平成元年 1月	3	45	1	27	2	16	6	88	8	312	—	1	8	9	320	1	22	—	—	1	22	16	430				
2月	8	200	2	226	6	628	16	1,054	15	537	4	836	—	19	1,373	—	—	—	—	—	—	35	2,427				
3月	3	57	1	26	12	603	16	686	26	853	12	1,486	9	483	47	2,822	—	—	—	—	—	—	63	3,508			
計	112	3,514	38	2,841	164	14,533	314	20,888	116	4,182	109	18,316	37	2,907	262	25,405	15	383	3	79	4	59	22	521	598	46,814	

移動博物館入館者数 (与那国町)

	小 人	大 人	合 計
6月3日 (金)	282	80	362
4日 (土)	241	143	384
5日 (日)	119	131	250
合 計	642	354	996

特別展「ヤンバルの自然」入館者数の内訳

昭和63年8月12日(金)～10月2日(日)

月	日	曜日	有 料 入 館 者									無 料 入 館 者					入館者 総合計					
			個 人				団 体					合 計	引 率	招 待	その他	合 計						
			大	人	高	大	小	中	計	大	人							高	大	小	中	計
8月	12日	金	314		62		197		573	64					64	637	1			217	218	855
	13日	土	575		79		324		978						0	978		4		132	136	1,114
	14日	日	631		73		357		1,061	30			34		64	1,125		1		105	106	1,231
	15日	月	休館日																			
	16日	火	470		97		298		865						0	865	5	4		141	150	1,015
	17日	水	350		77		237		664	16			8		24	688	9	4		82	95	783
	18日	木	380		86		245		711	25		45	99		169	880	5	2		125	132	1,012
	19日	金	358		81		216		655						0	655		4		124	128	783
	20日	土	347		54		135		536	49			17		66	602		1		44	45	647
	21日	日	327		50		180		557	50			42		92	649	1	1		53	55	704
	22日	月	休館日																			
	23日	火	293		111		201		605	40		27	1		68	673	3			62	65	738
	24日	水	274		84		170		528				21		21	549	4			67	71	620
	25日	木	280		72		157		509	30		54			84	593	1	3		59	63	656
	26日	金	260		64		124		448						0	448	3	2		29	34	482
	27日	土	354		107		197		658	21					21	679	2			44	46	725
	28日	日	602		125		386		1,113	27			17		44	1,157		9		85	94	1,251
	29日	月	休館日																			
	30日	火	384		117		269		770			85			85	855	3			41	44	899
9月	31日	水	318		51		207		576	23		157			180	756	1	1		58	60	816
	1日	木	152		32		22		206	20					20	226		1		12	13	239
	2日	金	96		23		2		121	20					20	141				7	7	148
	3日	土	187		36		40		263			89			89	352	4			9	13	365
	4日	日	428		95		143		666			25			25	691		2		50	52	743
	5日	月	休館日																			
	6日	火	120		36		1		157			51			51	208	3			7	10	218
	7日	水	139		14		18		171						0	171		1		4	5	176
	8日	木	134		35		1		170	47					47	217	1	1		11	13	230
	9日	金	136		34				170	139		159			298	468	12	2		8	22	490
	10日	土	224		41		41		306	28			33		61	367		1		21	22	389
	11日	日	419		59		252		730	33		21	21		75	805		2		98	100	905
	12日	月	休館日																			
	13日	火	174		9		1		184						0	184		1		24	25	209
	14日	水	166		9		2		177	35					35	212	1			6	7	219
	15日	木	敬老の日																			
	16日	金	175		30		8		213			57	171		228	441	21			4	25	466
	17日	土	154		68		32		254			37			37	291				18	18	309
	18日	日	452		42		236		730	11		85	48		144	874		14		74	88	962
	19日	月	休館日																			
	20日	火	140		23		3		166						0	166	23			64	87	253
	21日	水	146		6		9		161			72	41		113	274	6			11	17	291
	22日	木	118		7		1		126	77		27			104	230	26			44	70	300
	23日	金	秋分の日																			
	24日	土	209		80		27		316			88	27		115	431		1		21	22	453
	25日	日	332		67		107		506			47	65		112	618		4		38	42	660
	26日	月	休館日																			
	27日	火	124		28				152			77			77	229		5		33	38	267
	28日	水	173		28		1		202	34			91		125	327	2	3		19	24	351
	29日	木	138		75		2		215			234	101		335	550	1			58	59	609
	30日	金	107		77		6		190	22		52	244		318	508	24	7		50	81	589
10月	1日	土	251		69		65		385	22		567	420		1,009	1,394	7	6		36	49	1,443
	2日	日	526		143		319		988			257	350		607	1,595		24		98	122	1,717
累 計			11,937		2,556		5,239		19,732	863		2,313	1,851		5,027	24,759	169	111		2,293	2,573	27,332

特別展「ヤンバルの自然」曜日別入館者数

内 訳 曜 日	個 人 入 館 者 数				団 体 入 館 者 数				入 館 者 総 計				開館 日数	1日平均入館者数		
	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計		個 人	団 体	合 計
火	1,705 (10)	421	773	2,899 (10)	40 (169)	240 (10)	1 (240)	281 (409)	1,745 (179)	661	774 (240)	3,180 (419)	7	416	99	514
水	1,566 (9)	269	644	2,479 (9)	108 (90)	229	161 (180)	498 (270)	1,674 (99)	498	805 (180)	2,977 (279)	7	355	200	465
木	1,202 (7)	307	428	1,937 (7)	199 (157)	360	200 (186)	759 (343)	1,401 (164)	667	628 (186)	2,696 (350)	6	324	184	508
金	1,446 (15)	371	553	2,370 (15)	245 (275)	268	415 (225)	928 (500)	1,691 (290)	639	968 (225)	3,298 (515)	7	341	204	545
土	2,301 (13)	534	861	3,696 (13)	120 (75)	781	497 (263)	1,398 (338)	2,421 (88)	1,315	1,358 (263)	5,094 (351)	8	464	217	681
日	3,717 (57)0	654	1,980	6,351 (57)	151 (36)	435	577 (566)	1,163 (602)	3,868 (93)	1,089	2,557 (566)	7,514 (659)	8	801	221	1,022
合 計	11,937 (111)	2,556	5,239	19,732 (111)	863 (802)	2,313	1,851 (1,660)	5,027 (2,462)	12,800 (913)	4,869	7,090 (1,660)	24,759 (2,573)				
総合計	12,048	2,556	5,239	19,843	1,665	2,313	3,511	7,489	13,713	4,869	8,750	27,332	43	461	174	636

() 内は無料入館者

特別展「三線名器100挺展」入館者数の内訳

昭和63年11月1日(火)～27日(日)

月 日	曜 日	有 料 入 館 者										無 料 入 館 者					入館者 総合計
		個 人					団 体					合 計	引 率	招 待	そ の 他	合 計	
		大 人	高 大	小 中	計	大 人	高 大	小 中	計								
11月 1 日	火	200	7	19	226			211	211	437	2	12	67	81	518		
2 日	水	209	7	37	253	36	28	182	246	499	3	27	10	40	539		
3 日	木	821	18	177	1,016				0	1,016	5		43	48	1,064		
4 日	金	291	1	7	299		36	34	70	369		7	17	24	393		
5 日	土	326	65	26	417	98	37		135	552	8	7	66	81	633		
6 日	日	763	13	95	871	21			21	892	23		26	49	941		
7 日	月	休館日															
8 日	火	238	9		247	29		299	328	575	3	10	32	45	620		
9 日	水	244	2		246	66	504	564	1,134	1,380		51	12	63	1,443		
10 日	木	327	25		352	96	476	398	970	1,322	2	40	7	49	1,371		
11 日	金	369	15	6	390			554	554	944	6	22	43	71	1,015		
12 日	土	388	12	16	416	180	44	25	249	665	8	11	15	34	699		
13 日	日	534	6	75	615	142		14	156	771	13	3	9	25	796		
14 日	月	休館日															
15 日	火	212	1	12	225	134	359	679	1,172	1,397	3	37	21	61	1,458		
16 日	水	258	1	29	288		219	289	508	796	4	26	21	51	847		
17 日	木	290	4	1	295	53	131	89	273	568			21	21	589		
18 日	金	217	2	8	227	26	266	295	587	814	5	39	13	57	871		
19 日	土	328	13	7	348	184	794	181	1,159	1,507	5	32	13	50	1,557		
20 日	日	460	9	37	506	141		36	177	683	13	3	5	21	704		
21 日	月	休館日															
22 日	火	192	6	24	222	27	260	244	531	753	7	32	12	51	804		
23 日	水	勤労感謝の日															
24 日	木	291	15		306				0	306	8		10	18	324		
25 日	金	286	17	2	305	133		453	586	891	11	19	17	47	938		
26 日	土	427	3	18	448	27	554		581	1,029	18	29	10	57	1,086		
27 日	日	804	11	86	901	163			163	1,064	26	4	15	45	1,109		
累 計		8,475	262	682	9,419	1,556	3,708	4,547	9,811	19,230	173	411	505	1,089	20,319		

特別展「三線名器100挺展」曜日別入館者数

曜日	個人入館者数				団体入館者数				入館者総計				開館		1日平均入館者数	
	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計	日数	個人	団体	合計
火	842 (15)	23	55	920 (15)	190 (223)	619	1,433	2,242 (223)	1,032 (238)	642	1,488	3,162 (238)	4	234	616	850
水	711 (7)	10	66	787 (7)	102 (147)	751	1,035	1,888 (147)	813 (154)	761	1,101	2,675 (154)	3	265	678	943
木	1,729 (15)	62	178	1,969 (15)	149 (121)	607	487	1,243 (121)	1,878 (136)	669	665	3,212 (136)	4	496	341	837
金	1,163 (22)	35	23	1,221 (22)	159 (154)	302	1,336 (23)	1,797 (177)	1,322 (176)	337	1,359 (23)	3,018 (199)	4	311	494	804
土	1,469 (39)	93	67	1,629 (39)	489 (183)	1,429	206	2,124 (183)	1,958 (222)	1,522	273	3,753 (222)	4	417	577	994
日	2,561 (75)	39	293	2,893 (75)	467 (65)	0	50	517 (65)	3,028 (140)	39	343	3,410 (140)	4	742	146	888
合計	8,475 (173)	262	682	9,419 (173)	1,556 (893)	3,708	4,547 (23)	9,811 (916)	10,031 (1,066)	3,970	5,229 (23)	19,230 (1,089)				
総合計	8,648	262	682	9,592	2,449	3,708	4,570	10,727	11,097	3,970	5,252	20,319	23	417	466	883

() 内は無料入館者

2 県内外児童生徒学生団体見学者

小学校 (11,343名)

月日	学 校 名	月日	学 校 名	月日	学 校 名
4 15	松川小学校 185名	10 19	西原小学校 198名	11 11	羽地小学校 77名
16	天妃小学校 110名	19	宮森小学校 108名	11	金城小学校 140名
28	城北小学校 177名	20	宜野座小学校 102名	〃	渡慶次小学校 101名
〃	上田小学校 166名	21	武蔵野東小学校 (東京) 93名	〃	古堅小学校 144名
〃	南風原小学校 258名	〃	北玉小学校 90名	12	東小学校 28名
5 12	金城小学校 105名	〃	北谷小学校 71名	15	大山小学校 176名
18	馬根阿権小学校 (鹿児島) 42名	〃	津波小学校 28名	16	名護小学校 158名
〃	糸木名小学校 (〃) 34名	26	白川小学校 132名	〃	上本部小学校 39名
19	与那国小学校 26名	〃	城前小学校 130名	〃	瀬底小学校 32名
〃	久米島小学校 57名	27	普天間小学校 142名	〃	喜名小学校 76名
21	砂川小学校 39名	〃	宮城小学校 28名	17	大北小学校 95名
〃	平良第一小学校 90名	〃	城前小学校 149名	18	佐敷小学校 108名
26	山小学校外6校 (鹿児島) 306名	〃	伊是名小学校 35名	〃	奥間小学校 26名
〃	平良第一小学校 86名	28	石垣小学校 135名	〃	安慶田小学校 173名
〃	久松小学校 43名	〃	本部小学校 176名	19	稲田小学校 25名
28	西城小学校 42名	〃	島袋小学校 122名	〃	城北小学校 304名
〃	西辺小学校 41名	〃	諸見小学校 170名	22	辺土名小学校 56名
6 1	伊仙小学校 (鹿児島) 54名	29	和光小学校 (東京) 127名	〃	天底小学校 39名
2	鏡原小学校 49名	〃	漢那小学校 28名	25	読谷小学校 269名
〃	城辺小学校 37名	〃	真嘉比小学校 110名	〃	東江小学校 201名
3	下地小学校 48名	11	嘉芸小学校 41名	30	屋部小学校 65名
9	上野小学校 67名	〃	喜屋武小学校 71名	12	大宮小学校 168名
11	佐良浜小学校 90名	〃	真壁小学校 71名	17	川崎小学校 42名
15	犬田布小学校 (鹿児島) 38名	〃	船越小学校 37名	2	津堅小学校 27名
〃	面縄小学校 (〃) 30名	2	兼次小学校 42名	7	城岳小学校 140名
〃	平良南小学校 135名	〃	嘉手納小学校 149名	18	石嶺小学校 178名
〃	城西小学校 39名	4	三原、嘉陽、天仁屋小学校 39名	22	久茂地小学校 100名
7 16	〃 149名	8	牧港小学校 152名	23	高良小学校 187名
10 13	与那原小学校 125名	9	伊波小学校 156名	26	稲田小学校 20名
〃	城西小学校 205名	〃	金武小学校 116名	3	2 高嶺小学校 71名
〃	伊江小学校 53名	〃	嘉数小学校 156名	7	与儀小学校 103名
14	登野城小学校 228名	〃	宇栄原小学校 270名	11	若狭小学校 25名
〃	高江洲小学校 51名	〃	美崎小学校 44名	12	神原小学校 37名
〃	西小学校 46名	〃	久辺小学校 47名	15	城西小学校 185名
18	仲井真小学校 263名	10	津嘉山小学校 164名	18	〃 165名
〃	普天間第二小学校 128名	〃	真喜屋小学校 38名		
〃	座間味小学校 24名	〃	山内小学校 130名		

中学校 (5,042名)

月	日	学	校	名	月	日	学	校	名	月	日	学	校	名
4	13	三橋中学校 (福岡)		308名	9	30	伊良波中学校		226名	11	15	真志喜中学校		396名
5	10	成城学園中学校 (東京)		44名			〃 松城中学校		28名			〃 具志頭中学校		129名
	11	赤徳中学校 (鹿児島)		46名	10	13	鈴峯女子中学校 (広島)		45名		22	羽地中学校		161名
	12	大川中学校 (福岡)		292名		15	小宿中学校 (鹿児島)		95名	12	9	越来中学校		166名
	13	成城学園中学校 (東京)		42名		16	龍南中学校 (〃)		64名	3	2	清和中学校 (佐賀)		27名
	14	名瀬中学校 (鹿児島)		311名		21	金久中学校 (〃)		366名		18	千代田中学校 (広島)		139名
	29	名普中学校 (〃)		34名		26	読谷中学校		316名		22	成城中学校 (東京)		169名
6	18	久米島中学校		25名		〃	玉城中学校		193名		23	愛媛大学附属中学校 (愛媛)		49名
	〃	蘇陽中学校 (鹿児島)		104名		28	本部中学校		192名		29	大野中学校 (岐阜)		40名
9	21	港川中学校		45名		〃	糸満中学校		262名		〃	帯山中学校ソフト部 (熊本)		26名
	24	首里中学校 (～10月2日)		442名	11	10	城ヶ丘中学校		37名					
	29	大川市立三又中学校		109名		11	知念中学校		114名					

高等学校 (19,501名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	2	広島山陽女子高校 (広島) 75名	10	29	広島工業大学附属高校(～29日・広島) 423名	11	30	東京管生高校 (東京) 596名
	12	神戸須磨ノ浦高校 (兵庫) 524名		19	久留米学園高校 (福岡) 241名	12	1	浦和学院高校 (埼玉) 45名
	21	洗足学園大学附属高校(神奈川) 124名		21	Kubasaki High School 29名		6	鶴来高校 (石川) 255名
5	26	神奈川大学附属高校(神奈川) 216名		25	宇部鴻城高校 (山口) 301名		〃	北陽高校 (～9日・大阪) 615名
6	2	自由の森学園高校 (埼玉) 25名		〃	中央商業高校 (東京) 105名		9	精華女子高校 (大阪) 300名
	12	石川県立工業高校 (石川) 43名		〃	羽衣学園高校(～26日・大阪) 828名		10	大阪高校 (～11日・大阪) 535名
	15	徳之島農業高校 (鹿児島) 51名		26	寺井高校 (石川) 411名		14	明德商業高校(～17日・京都) 623名
	16	首里高校 67名		30	帝国女子高校 (大阪) 491名		15	清風高校(～17日・大阪) 1,147名
7	6	岡山県作陽高校 (岡山) 416名		〃	東洋大附属姫路高校(兵庫) 254名		16	京都橘女子高校 (京都) 429名
	24	野田学園高校 (山口) 180名	11	2	小松北高校 (石川) 31名		17	千代田学園高校 (東京) 23名
8	6	宇部高校 (山口) 80名		4	知念高校 (～5日) 77名		〃	常葉学園高校 (静岡) 103名
	〃	向陽台高校 (愛知) 49名		9	広陵高校 (広島) 530名		20	京都女子高校 (京都) 279名
	26	甲陵高校 (山梨) 26名		10	富士学苑高校 (山梨) 231名		21	西山高校 (京都) 30名
8	30	開邦高校 (～9月4日) 364名		〃	下関高校 (山口) 128名		〃	京都女子高校 (京都) 305名
9	6	千代田学園高校 (東京) 54名		〃	薫英高校 (大阪) 135名		22	常葉学園高校 (静岡) 364名
	17	西原高校 (～25日) 230名		16	浪速高校 (大阪) 450名		23	埼玉工業大附属深谷高校(埼玉) 220名
	25	首里高校 (～29日) 231名		〃	佐賀中央工業高校 (佐賀) 150名	2	4	南風原高校 122名
	29	首里東高校 29名		17	佐波高校 (山口) 138名		19	星野女子高校(～20日・埼玉) 795名
10	4	駒沢学園女子高校 (東京) 378名		18	攻玉社高校 (東京) 274名	3	3	大阪商業大附属高校(～5日・大阪) 617名
	6	広島文教女子大附属高校(広島) 187名		19	明浄学院高校 (大阪) 818		5	糸満高校 27名
	〃	佐世保工業高校 39名		22	読谷高校 64名		8	花園高校 (京都) 510名
	7	大島工業高校 (鹿児島) 151名		〃	帝京高校 (東京) 446名		19	同志社国際高校 (京都) 41名
	12	昭和薬科大附属高校 174名		26	奈良白藤高校 (奈良) 346名		〃	正強高校 126名
	15	東京高校 (東京) 369名		29	内灘高校 (～30日・石川) 366名		〃	山陽女子高校 45名

大学及び専門学校 (1,490名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	28	奈良工業高等専門学校(奈良) 37名	8	23	台北實踐家政専科学校 (台湾) 21名	11	12	沖縄キリスト教短大 48名
	〃	文化服装学院 (東京) 37名	9	9	九州電気学園 (静岡) 159名	2	2	長野農業大学 (長野) 30名
	26	沖縄国際大学 21名		14	琉球大学 (～18日) 75名		9	琉球大学 105名
	30	沖縄キリスト教短大 50名		21	嵯峨美術短大 (京都) 42名	3	3	福島女子短大 (福島) 72名
5	13	沖縄ビジネス外語学院 25名		〃	玉川大学 (東京) 35名		22	山陽女子短大 (広島) 97名
6	19	近畿大学沖縄学院 150名		22	警察学校 47名		28	松山商科大学 (愛媛) 21名
7	3	千代田工科芸術専門学校(～19日・東京) 391名		〃	文化女子大 (東京) 27名			

特殊学校その他 (1,073名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	2	ガールスカウト神奈川155団(神奈川)	33名	8	14	恩納村富着子保育会	35名	10	29	川崎小学校 P T A	34名
		〃 北谷町桑江「つばめ子供会」	48名	18		嘉手納町北区 P T A	104名			〃 真嘉比小学校 P T A	51名
	3	与那原町板良数子供会	28名	21		佐敷町外間 P T A	20名	12	18	南風原町(神里) P T A	74名
5	25	那覇養護学校	21名	9	10	泊小学校 P T A	61名	2	12	城岳小学校家庭教育学級	30名
6	12	上田小学校 P T A	28名		11	大里南小学校 P T A	32名	18		石嶺小学校 P T A	142名
	19	浦添おおぞら子供会	20名		16	大平養護学校(高等部)	36名	3	5	安慶田小学校 P T A	37名
7	24	久志中学校 P T A	26名		18	神森子供会 P T A	40名	28		ガールスカウト日立クラブ	60名
8	7	仲尾次 P T A	42名			〃 富盛子供会 P T A	39名	30		中学生、高校生による沖縄体験	32名

III 展示活動

1 常設展

展示室概観

展示室は1階に「歴史展示室」（考古・歴史）と「自然史展示室」がある。2階はロビーに常設展を兼ねた「企画展示室」と「美術工芸展示室」、それに「民俗展示室」がある。各展示室を結ぶ基本的な観客導線の順序は上に述べた順となっている。

歴史展示室（第1室）は、琉球列島の形成と旧石器時代、そして九州縄文文化の南下で開始された独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代を展示した。12世紀頃からは、各地に支配者である按司が登場し、グスク時代が開始される。15世紀初期に沖縄は統一され、琉球王国が誕生する。琉球王国の対外貿易、外交状況、近世史の概要、近世の文化、さらに幕末、琉球処分、明治・大正・昭和の様相、沖縄戦といった通史的な流れが展示されている。

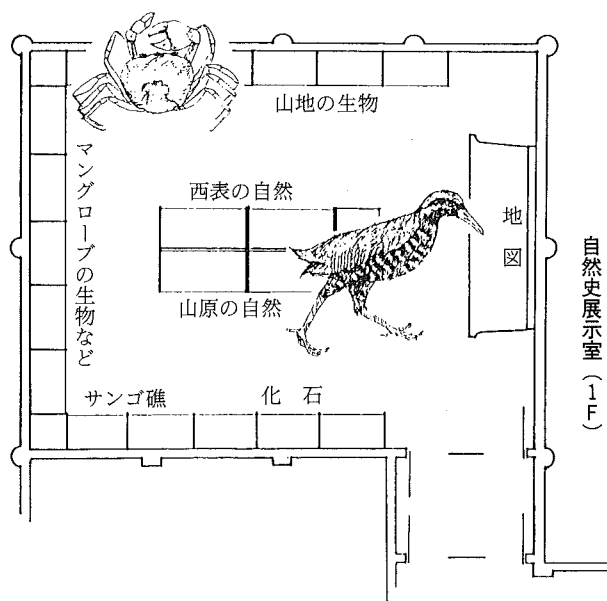
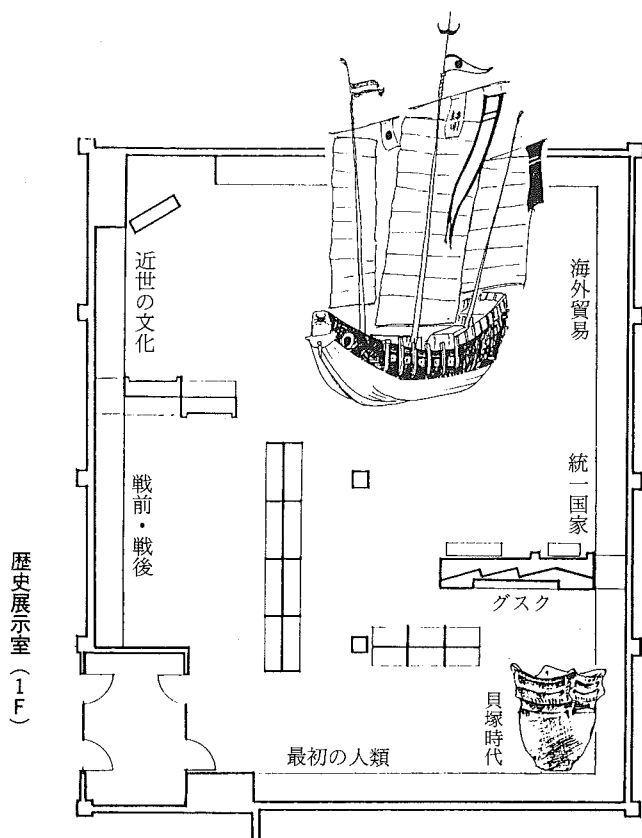
自然史展示室（第2室）は、琉球列島の成立および亜熱帯地域に広がる沖縄の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナガコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれる程多様な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理し紹介している。また、豊かな自然をとどめる山原（沖縄本島北部）と西表島の自然についても、特設コーナーを設けて展示してある。

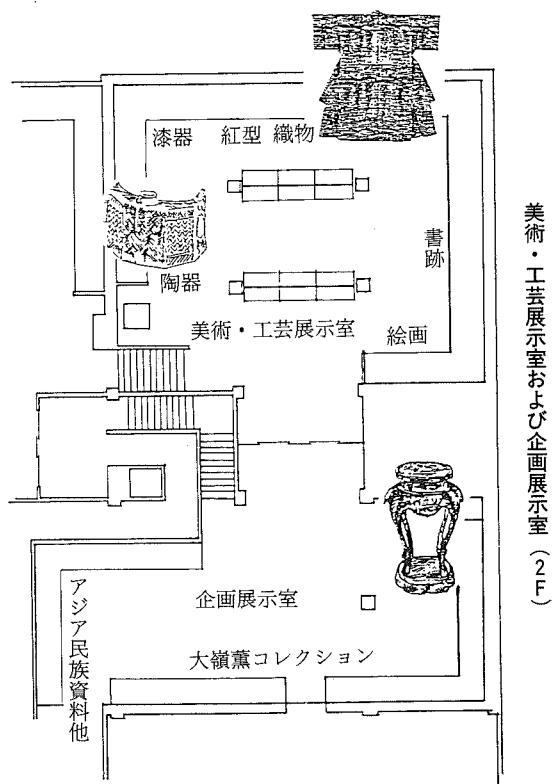
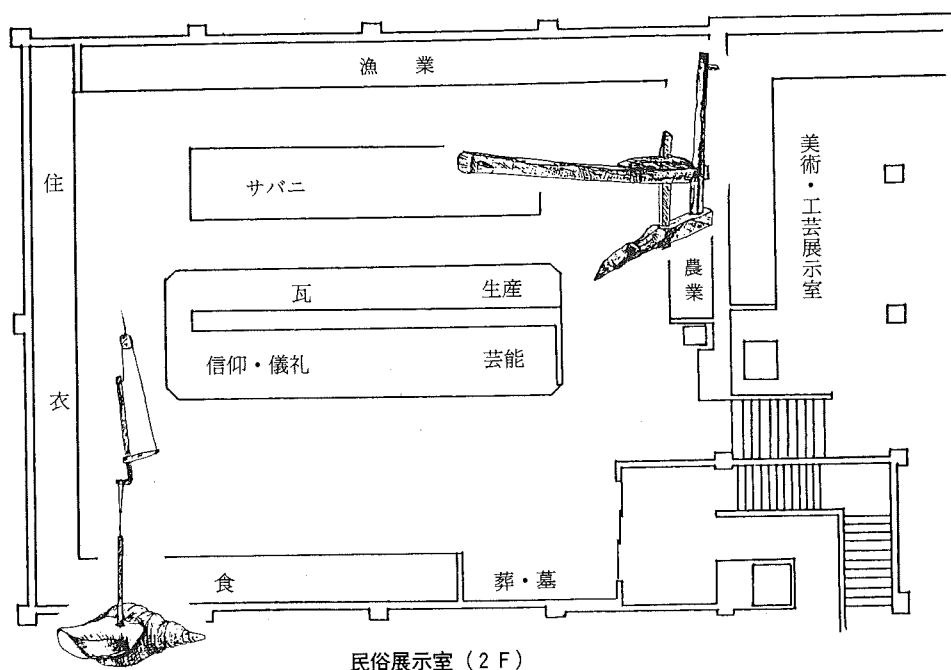
企画展示室（2階ロビー）は企画展・特別展に使用されるが、普段は当館が所蔵する「大嶺コレクション」や「東南アジアの民族資料」「沖縄の楽器」などを展示した。

美術工芸展示室（第3室）は沖縄の代表的な文化資料である、絵画、書跡、漆器、陶器などが展示されている。わが国唯一の亜熱帯の風土と海外文化交流を背景に製作された美術工芸品は、沖縄の個性的な世界を表現している。

民俗展示室（第4室）は琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などの分野に整理分類して展示してある。これらの生活用品を通して、沖縄の生活文化とその広がり確かめることができる。

なお、1階ロビーには、首里城正殿前に掲げられていた「万国津梁の鐘」や首里城正殿模型をはじめ扁額などの展示がなされている。





2 特別展

「ヤンバルの自然」

会 期：昭和63年 8月12日(金)～10月 2日(日)

会 場：1階ロビー、自然史展示室、企画展示室、講堂

〔開催趣旨〕沖縄本島北部は、別称「ヤンバル」とも呼ばれ琉球列島の自然を代表し、生物の宝庫である。ヤンバルの森林は、イタジイやオキナワウラジログシなどを中心とした植物におおわれ、そこには一属一種の原始的なキツツキといわれるノグチゲラ、沖縄島の固有種であるヤンバルクイナやヤンバルテナガコガネ、その他多数の貴重な生物が生息している。また、県民の水がめとして私たちと深く関わっている場所でもある。しかし、最近の開発の勢いは激しく、ヤンバルの自然の危機が叫ばれている。

本展示会は、ヤンバルの自然に対する関心と、保護意識の高揚に寄与することを目的として実施した。

〔開催形式〕当館と沖縄タイムス社が主催し、NHK沖縄放送局および琉球放送の後援を受けて実施した。また館内2人、館外5人からなる展示指導委員会を設置し、展示内容や展示会の推進について検討した。

〔展示内容〕沖縄島の北部地域いわゆる「山原（ヤンバル）」に焦点をあて、山地森林・溪流などの特徴やそのしくみ、それらに支えられて生活している貴重な動物や植物の生態を、実物標本や写真パネルなどをもちいて解説した。またヤンバルにすむ様々な動物や植物の紹介だけにとどまらず、山原の生物相の特徴、山原の森のつくりやしくみ、ユニークな動・植物を生み出す背景となった琉球列島の地史、ヤンバルの自然と県民生活とのかかわり合いなどについてもわかりやすく紹介した。また講堂においては、ヤンバルに生息する動物の生態を紹介する映画を、開催期間中毎日（午前と午後の2回）上映した。

〔展示品目録〕（動物実物標本）ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネ、ケナガネズミ、カラスバト、リュウキュウヤマガメ、ハブ、イボイモリ、イシカワガエル、ナミエガエル、ホルストガエル、コノハチョウ、フタオチョウ、その他

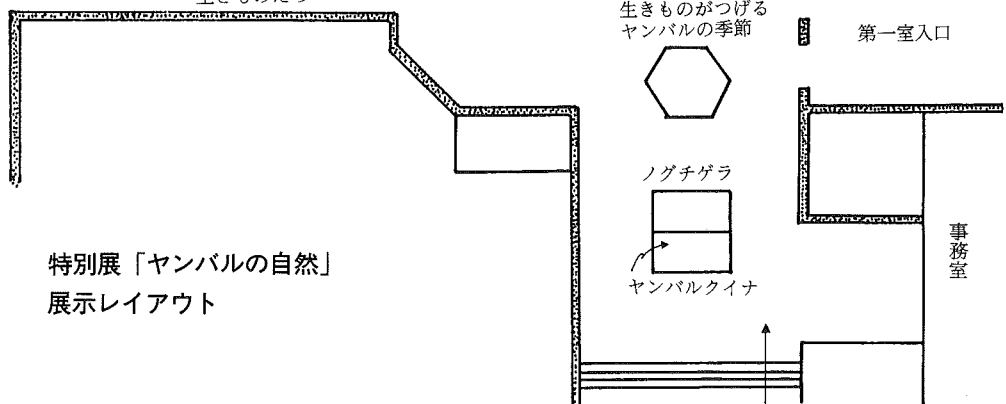
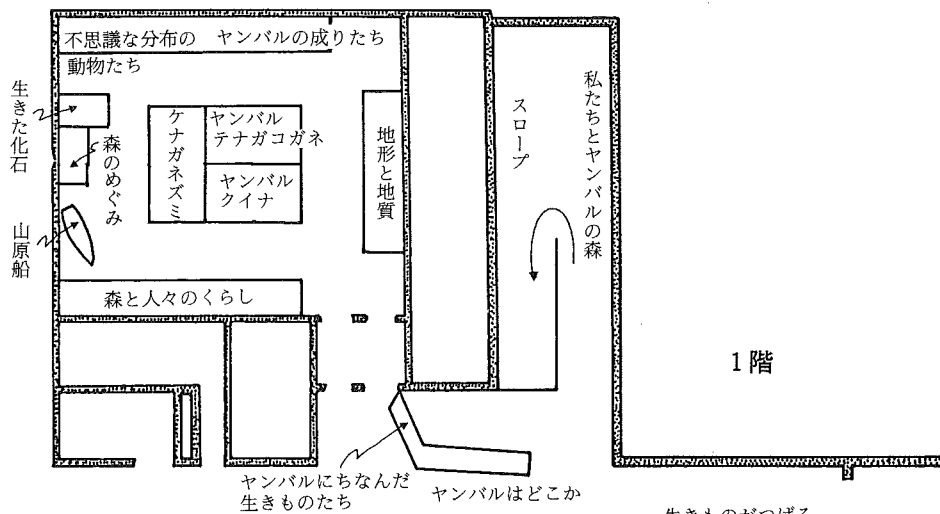
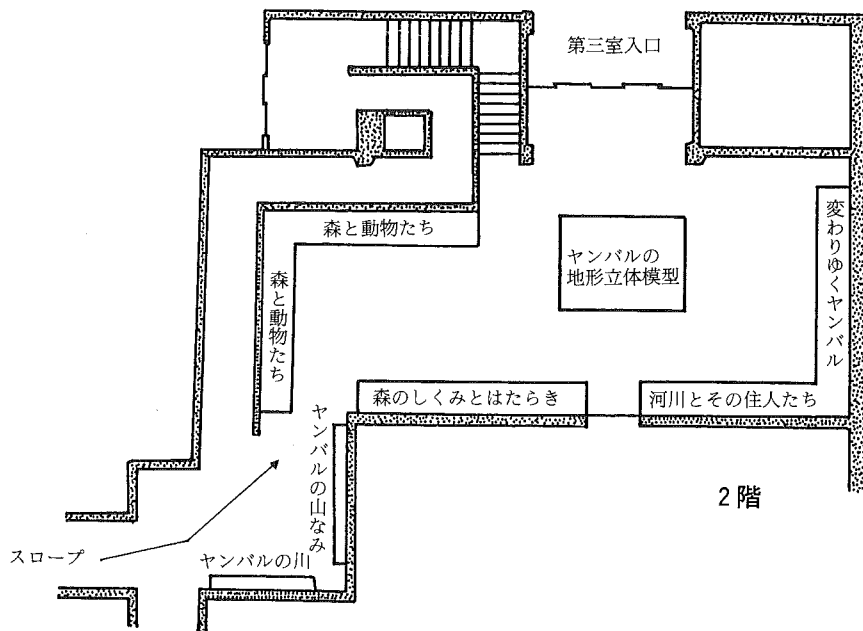
（植物標本）ヤンバルタマシダ、コシダ、イタジイ、オキナワウラジログシ、その他

（樹木の材標本）イタジイ、オキナワウラジログシ、タブノキ、その他

（民俗資料）サギヤイ（落下式のイノシシわな）、モリ、こびきのこ、ナタ、ヤーマ、木工製品、竹細工品、ワラビ細工品、木炭わら、シイタケのほだ木、山原船模型

（化石・鉱物標本）アンモナイト、ハロピア、リュウキュウジカ、パレオドクソドン象の歯、石灰岩、黒色片岩など

（写真パネル）山原地域に生息する哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、その他動物や植物の生態写真



「三線名器100挺展」

会 期：昭和63年11月1日(火)～11月27日(日)

会 場：沖縄県立博物館（企画展示室、第3室、講堂）

〔開催趣旨〕14～15世紀ごろ中国から伝来した三線は、今日まで沖縄の人びとにもっとも親しまれている楽器である。三線は、沖縄の芸能文化のあり方を方向づけただけでなく、永禄年間には沖縄から本土へ伝来し、本土の芸能にも影響を与えた。本展示会では、数ある三線のなかから名器をえりすぐって100挺展示し、三線の歴史や変遷、三線の製作工程、関連楽器などを沖縄文化史のなかでとらえ、県民の理解を深めるために企画・実施した。

〔開催形式〕当館および琉球新報社、琉球三線楽器保存育成会が主催した。後援にNHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、沖縄県指定無形文化財沖縄伝統音楽野村流保存会、同安富祖流保存会、同湛水流保存会。なお、展示会の推進にあたって展示指導委員会を置き、7名（当館職員1名）で構成した。

〔展示内容〕数ある三線のなかから沖縄県指定有形文化財も含めて、名器と称される111挺を代表的な7つの型に分けて展示した。その際、各名器の由来、特徴などを文字パネル、図パネルで展示した。三線の歴史と文化が分かるように、アジアの三弦の分布と沖縄への伝来の経路、沖縄から本土への経路を地図パネルで示した。三線と芸能、三線と生活など、三線と人びとのかかわりを文字・写真パネルで展示した。いろいろな三線としてカンカラ三線、渋張り三線、人工皮張り三線などを展示。関連楽器、歴史資料として琴、笛、胡弓、太鼓、工工四、琉歌集、組踊台本、舞楽図、楽童子などを展示した。三線ができあがるまでを展示し、三線の仕組みが分かるようにした。カンカラ三線、蛇皮張り三線を見学者が手に取り、弾けるような体験コーナーを設けた。また、展示期間中、多くの方がたがもっている三線の型と特徴を鑑定するサービスコーナーを設けた（およそ230挺を鑑定した）。

関連催し物として、試演会（「屋嘉比工工四」を聴く、名器を聴く、沖縄・奄美・大和の三線の奏法の比較）、シンポジウム（テーマ：三線音楽の現状と問題点）を行った。

〔展示目録〕図録として『特別展三線名器100挺展』（76ページ）を作成し、そのなかで全展示品を紹介・解説するとともに、巻末に「出品一覧表」を作成し、掲載した。

〔付 記〕この特別展示期間中、第170回博物館文化講座「三線名器100挺展展示解説会」（講師・宜保栄治郎、大城學）も開催された。

The floor plan illustrates the layout of the 3rd Floor Art Museum Exhibition Room. It features several numbered exhibition areas and specific exhibit labels. The plan includes a central staircase and various corridors connecting different sections. Key exhibit areas include:

- Exhibition Area 1:** 南風原型 (Nanfeng Original Type)
- Exhibition Area 2:** 知念大工型 (Chikanoda Large Type)
- Exhibition Area 3:** 久場春殿型 (Kuchikake Gakko Type)
- Exhibition Area 4:** 久場の骨型 (Kuchikake Bone Type)
- Exhibition Area 5:** 真壁型 (Real Wall Type)
- Exhibition Area 6:** 平仲記念型 (Hirayoshi Memorial Type)
- Exhibition Area 7:** 与那城型 (Yonabatake Type)

Specific exhibit labels and room names include:

- 三線製作の工程と道具 (Three Lines Production Process and Tools)
- 三線との関連楽器 (Related Instruments of Three Lines)
- いろいろな三線 (Various Three Lines)
- 三線の歴史と文化 (History and Culture of Three Lines)
- 三線と生活 (Three Lines and Life)
- 三線と技能 (Three Lines and Skills)
- 三線分解の展示 (Three Lines Disassembly Display)
- 三線鑑定のコーナー (Three Lines Appraisal Corner)
- 体験コーナー (Experience Corner)
- 名器の概要 (Overview of Masterpieces)
- 歴史資料の展示 (Display of Historical Materials)
- 琉歌集組舞台本(写本) (Ryūka Shū Kumidaihon (Copy))
- 琉球人坐楽併席之図 (Diagram of Ryukyuan People Sitting and Playing Music Together)
- 江戸時代行列図 (Edo Period Parade Diagram)
- 企画展示室 (Planning Exhibition Room)
- 経路・分布図 年表 概要 (Route Distribution Map, Chronology, Overview)
- 企画展示室 (Planning Exhibition Room)
- 2階 (2nd Floor)

3 企画展

昭和62年度新収蔵品展

会 期：昭和63年 5月10日(火)～5月22日(日)

会 場：企画展示室（2階ロビー）

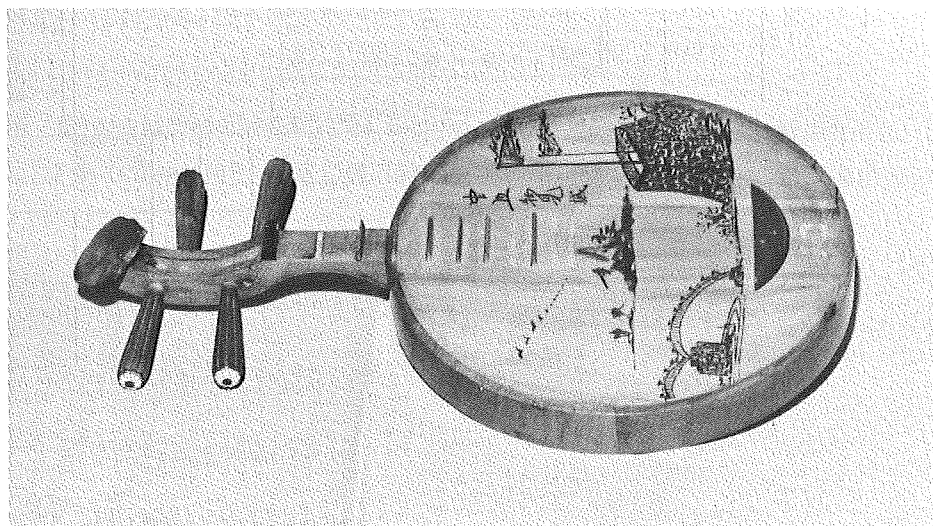
〔開催趣旨〕前年度に寄贈・購入・収集あるいは移管・返還などで得た新資料を一般公開する目的で開催する恒例の企画展である。新資料を紹介し広く活用してもらうことはもとより、資料を提供していただいた方々に対する感謝の意を込めて毎年開催している。

〔展示内容〕展示スペースに限りがあるため、収蔵された全ての資料を展示することはできなかった。主な展示物として、書跡では林鴻年・何冠英などの書、漆器では黒漆山水楼閣人物螺鈿印籠、歴史資料では土地売却証文類など、民俗資料では厨子甕類、民具類、三味線（久場春殿）、中国楽器などを展示した。なお、展示レイアウトは図を参照。

〔展示目録〕展示会に際してパンフレット「昭和62年度新収蔵品展」を刊行し、そのなかで主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は『沖縄県立博物館年報』No21にも掲載されている。

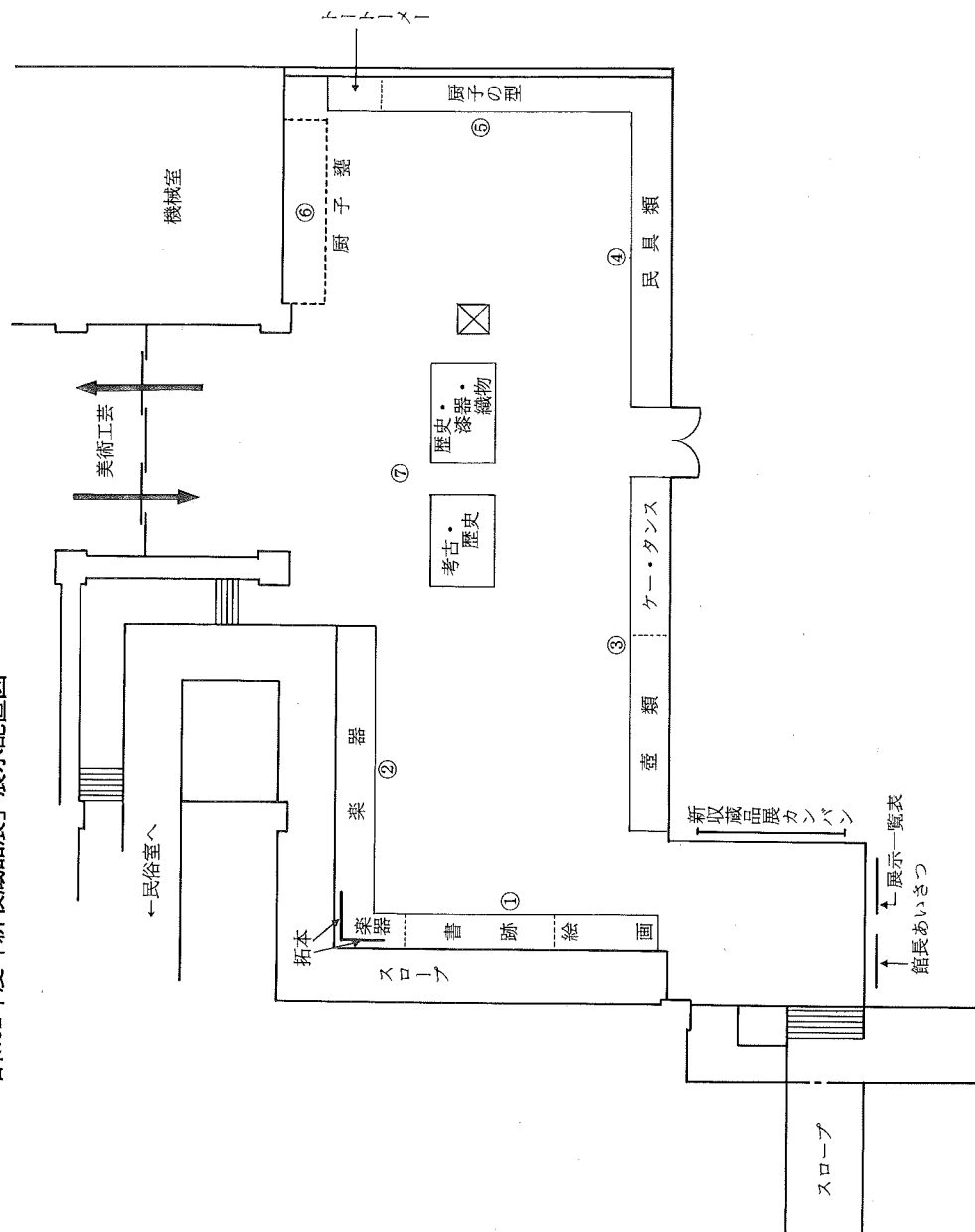
- 1) 購入の部：林鴻年書・三味線（久場春殿）のほか21点
- 2) 寄贈の部：張り子の型・貝斧（レプリカ）のほか171点
- 3) 収集の部：上焼本御殿型厨子甕・骨壺のほか70点

〔感謝状の贈呈式〕絵画「灯のともるころ」を寄贈した玉那覇吉氏に対し日を改めて感謝状を贈呈した。



月 琴

昭和62年度「新収蔵品展」展示配置図



4 移動博物館

第12回移動博物館

会 期：昭和63年6月3日(金)～6月5日(日)

会 場：与那国町立離島振興総合センター

観覧料：無 料

主 催：沖縄県立博物館・与那国町・与那国町教育委員会

〔趣 旨〕当館の利用の便に恵まれない離島や遠隔地において、通常の博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域普及をはかることを目的とする。第12回目は日本の最西端に位置する与那国町で開催した。

〔内 容〕博物館資料の展示とビデオ放映を会場で行い、講演会は与那国町立中央公民館において催した。展示は自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野別とし、それに戦前の写真パネルを加えた（展示目録参照）。

〔ビデオ放映〕「琉球の風物」、「琉球の工芸」、「東洋のガラパゴス」、「トンボの愛はハート型」、「酒だ忍法コノハチョウ」

〔講演会〕日 時：昭和63年6月3日(金) 午後7時～9時

場 所：与那国町立中央公民館

演題及び講師 「与那国島の自然」

池原貞雄（国立琉球大学名誉教授）

〔入場者数〕

展示会	642（小人）	354（大人）	計 996
講演会			74
			合計 1,070人

〔予 算〕国庫補助を得て総額3,549,000円で、内訳は報償費(12,000円)、費用弁償(61,000円)、旅費(876,000円)、消耗品費(90,000円)、印刷製本費(145,000円)、通信運搬費(2,365,000円)である。

〔展 示 品 目 録〕

＜古 生 物＞

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐竜の卵の化石、世界最古の化石“コレニア”

＜沖縄の生物＞

写真パネル〔沖縄の天然記念物（動物）〕

ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、他

動物剥製

コガモ、ヤンバルクイナ、アカショウビン、ヤマシギ、ホウロクシギ、アオバト、キンクロハジロ、イノシシ

昆虫標本（沖縄の代表的な蝶類）

アゲハチョウ科、タテハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、他約100点

＜絵 画＞

魚売りの図（筆者不詳）、芭蕉の図（長嶺華国筆）、沖縄風景絵図（宮崎東里筆）

＜書 跡＞

清風（古波蔵爾方書）、龍字賛（鄭徳潤書）

＜織 物＞

絹浅葱地花倉織着物（復元）、木綿紺地花織ティーサージ、木綿白地花織ティーサージ

＜紅 型＞

木綿染分地震に遠山菊流水文様胴衣、紅型型紙

＜漆 器＞

朱漆葡萄沈金六角提重、黒漆松竹梅螺鈿重箱

＜陶 器＞

緑釉嘉瓶、アンダガーミ、赤絵鶴松竹文鶴首、白釉黒流からから、赤絵撫子文碗、釘彫竹梅小鳥抱瓶、線彫魚文花瓶（金城次郎作）、獅子（島常賀作）

＜彫 刻＞

玉陵石彫獅子（レプリカ）

＜歴 史＞

拓 本 万国津梁之鐘銘、円覚禅寺記、国王頌徳碑（1522年）、崇元寺之前之碑文〔下馬碑〕（裏表）、官松嶺記、比謝橋碑文、新修美栄橋碑記（裏表）、山北今帰仁監守来歴碑記（裏表）、琉球新建国学碑文

その他 明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書、琉球通宝等の古銭類、勾玉

＜考 古＞

港川人頭骨（レプリカ）、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、石斧、磨石、叩石、凹石、与那国慶田崎遺跡とトゥグル浜遺跡の出土品（県文化課蔵）

<民 俗>

三味線 江戸与那型、久場春殿型

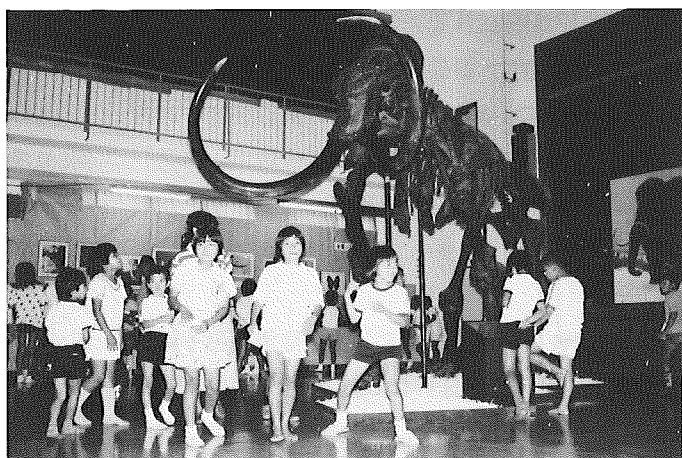
竹製品 かめ型花籠、縄耳付花籠、山形立差花籠、窓の月花籠、蘇鉄差花籠、ナス型花籠、丸竹花台、紙屑入籠、丸竹満月花生、南瓜型籠、ウーパーラー、二つ籠、壁掛一輪差、手付果物盛籠、水切籠、四つ目平ざる、手まり型一輪差、桶型一輪差、文庫、竹行李

凧 龍凧、八角凧、フータン、宮古凧、日の出凧、ヤカジ凧、八重山角凧

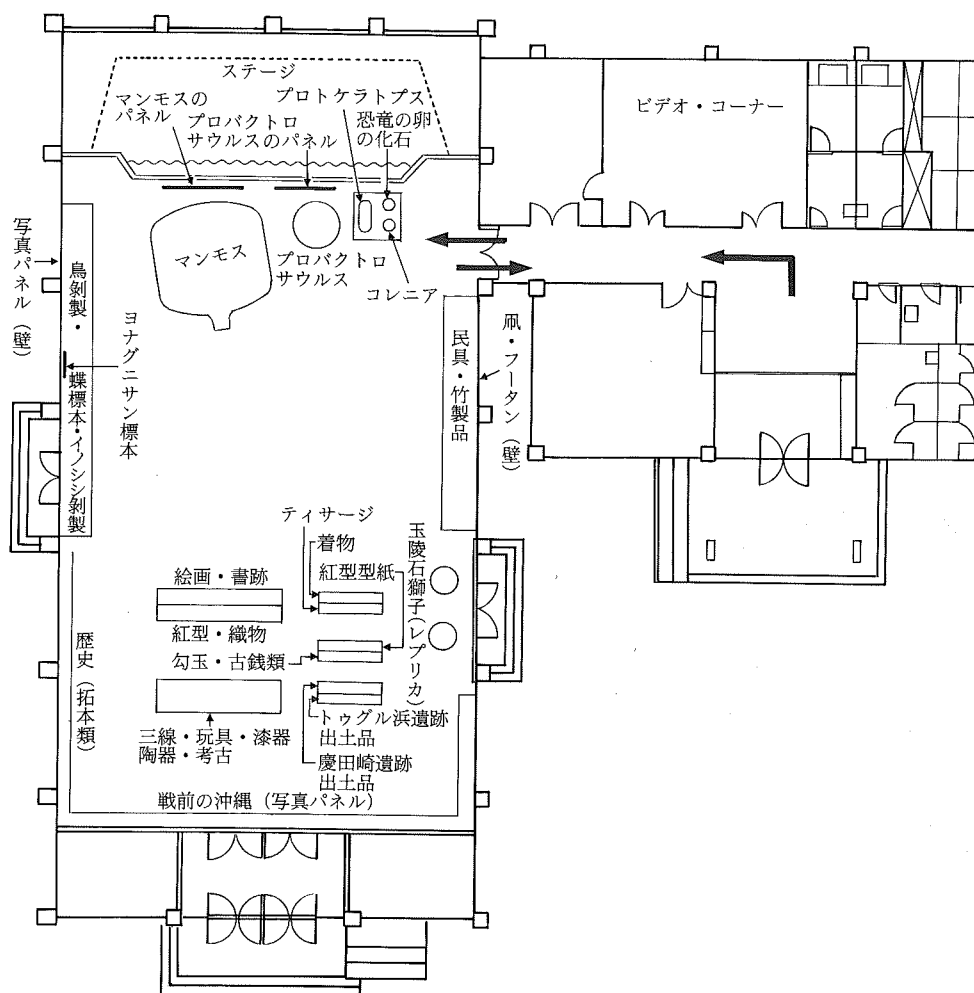
玩具 ヤカジ、コイ乗り童子、タウチー、ウッチリクブサー、ホートウグワー、シシメーサー、ジュリグワーブトゥッキー、チンチンウマグワー、ハーリーブニ

<戦前の沖縄 (写真パネル)>

首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋武御嶽石門、円覚寺山門、弁ヶ嶽大嶽石造拝殿、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、競馬、闘牛、市場、農家、葬列、サーターヤ、カーミ市、辻原の亀甲墓、魚市場、機織り、布市場、魚売り、壺屋の陶工、白作り、その他



与那国町離島振興総合センター平面図



移動博物館展示略図 (与那国町立離島振興総合センター)

(展示会場：450.00㎡)

(ビデオ・コーナー：39.60㎡)

IV 教育普及活動

一口で言うと博物館は、物を見、物と接することによって世界を学ぶ場所だといえる。このような意味では博物館に対する県民の要望は毎年毎年多様化の傾向にあり、これにこたえるため当館では教育普及活動の充実を目指し頑張っているところである。昭和63年度の主な事業としては博物館文化講座や諸刊行物の出版などがあった。なかでもかねてより要望の強かった学習教材としてのワークブックを刊行することができたことは大きな成果である。『小学生のための博物館学習ノート』がそれであり、早速小学校の児童生徒に利用され好評である。

1 博物館文化講座

- 第161回 「琉球と東南アジアの交流史」 4月30日(土) 参加者 109名
講師：高良倉吉（浦添市立図書館長）
内容：琉球と東南アジアの外交・貿易の歴史と、交流相手国の史跡を紹介した。
- 第162回 「パナリ焼について」 5月21日(土) 参加者 44名
講師：大嶺実清（沖縄県立芸術大学助教授）
内容：当館収蔵のパナリ焼を見ながら解説をした。
- 第163回 「沖縄、川の魚の話」 6月11日(土) 参加者 24名
講師：幸地良仁（南風原高校教諭）
内容：メダカ・タッポミノー・アユ等、沖縄の河川にすむ魚たちの生態を紹介した。
- 第164回 「親子民具教室」 7月31日(土) 参加者 52名
講師：外原 淳（「星ッコロ」沖縄玩具伝承友の会主宰）
内容：親子でアダンやソテツの葉を用いた沖縄の玩具（風車・馬・虫カゴ・他）を作った。
- 第165回 「ヤンバルの自然展 展示解説会」 8月13日(土) 参加者 30名
講師：千木良芳範（沖縄県立博物館充指導主事）
内容：特別展「ヤンバルの自然」に展示されたヤンバルの動・植物について解説した。
- 第166回 「ヤンバルの天然記念物」 9月10日(土) 参加者 54名
講師：池原貞雄（琉球大学名誉教授）
内容：特別展「ヤンバルの自然」に関連して、ヤンバル地域に生息する天然記念物を紹介した。
- 第167回 「久米島の史跡めぐり」 9月24日(土)～25日(日) 参加者 44名
講師：上江洲 均（沖縄県立博物館副館長）

知念 勇（沖縄県立博物館学芸課長）

内容：具志川城・伊敷索城・宇江城や上江洲家など、久米島の史跡を巡りそれぞれの解説をした。

第168回 「湧田古窯の発掘調査について」 10月15日(土) 参加者 28名

講師：安里嗣淳（沖縄県教育庁文化課主幹兼埋蔵文化財係長）

内容：湧田古窯（瓦）の発掘調査成果について、その出土物と沖縄の瓦窯について解説した。

第169回 「湧田古窯と沖縄の瓦窯」 10月22日(土)

講師の都合により取りやめ

第170回 「三線名器100挺展 展示解説会」 11月 5 日(土) 参加者50名

講師：宜保栄治郎（沖縄県教育庁文化課課長）

大城 學（沖縄県立博物館専門員）

内容：特別展「三線名器100挺展」に展示された三線の由来・型・特徴などについて解説した。

第171回 「琉球の彫刻」 12月 3 日(土) 参加者 24名

講師：西村貞雄（琉球大学助教授）

内容：首里城周辺の彫刻を中心に、当館の収蔵品も含めて琉球の彫刻について解説した。

第172回 「建築家がみた首里城正殿」 平成元年 1 月21日(土) 参加者 83名

講師：福島 清（株式会社国建海外部次長）

内容：首里城正殿を建築的にわかりやすく解説し、復元の方法を紹介した。

第173回 「拓本教室」 2 月18日(土) 参加者 14名

講師：崎間麗進（沖縄県文化財保護審議会専門委員）

上江洲敏夫（県立図書館主任専門員）

内容：当館内に収蔵されている石碑を用いて、拓本の採り方をわかりやすく指導した。

第174回 「紅型の型紙」 3 月18日(土) 参加者 16名

講師：金城純子（沖縄県工芸指導所研究員）

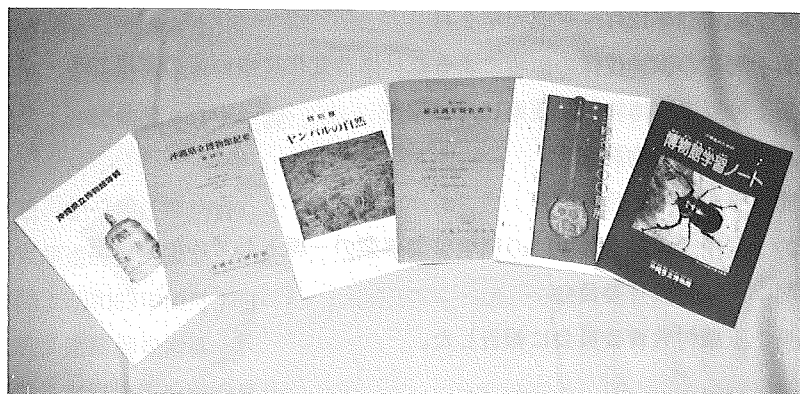
内容：当館収蔵の型紙や紅型衣装を見ながら解説した。



文化講座（第174回「紅型の型紙」）

2 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁数)	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5 (12)	新収蔵品を紹介する図録
第12回移動博物館パンフレット	不定期	1,000	B 5 (4)	移動博の展示内容を紹介
沖縄県立博物館年報 No.21	定 期	700	B 5 (56)	前年度の当館の活動状況の報告
ヤンバルの自然	不定期	2,000	B 5 (39)	同名の特別展を紹介する図録
三線名器100挺展	不定期	1,000	B 5 (76)	同名の特別展を紹介する図録
冊 封 使	不定期	1,000	B 5 (80)	冊封使について紹介する普及書
沖縄県立博物館紀要 第15号	定 期	1,000	B 5 (76)	学芸員の調査研究報告
総合調査報告書 IV 与那国島	不定期	1,000	B 5 (63)	学芸員の調査研究報告
小学生のための学習ノート	不定期	3,125	B 5 (55)	博物館利用のためのワークブック
ポスター	定 期	1,000	B 全	次年度の当館行事案内
リーフレット	不定期	3,000	A 4 三折	当館の展示等を紹介



V 調査研究活動

昭和63年度の当館職員の調査研究活動とその成果は以下の通りである。

1 調査研究

上江洲 均（副館長）

- 国立民族学博物館国内資料調査

調査期間：昭和63年11月23日～12月7日

依頼機関：国立民族学博物館

- 琉韓文化の比較調査（文部省科研費）

調査期間：昭和63年1月5日～18日

依頼機関：県立芸大

知 念 勇（学芸課長）

- 与那国島の遺跡調査

期 間：昭和63年6月4日～10日

依頼機関：沖縄県立博物館

- 読谷村吹出原遺跡の発掘調査

期 間：昭和63年7月11日・20日・8月4日

依頼機関：読谷村教育委員会

- 奄美諸島瀬戸内町の遺跡調査

期 間：昭和63年8月15日～18日

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

日 越 国 昭（教育普及課長）

- 辺野喜川上流における防風樹林帯の構造変化の調査

期 間：昭和63年12月～平成元年2月

目 的：周辺の森林伐採の影響による森林構造変化についての基礎的データの収集

結 果：沖縄県立博物館紀要第15号に報告

- 糸数城跡城郭内の植物調査

期 間：平成元年1月～3月

目 的：国指定史跡糸数城跡の環境整備事業の一環としての植物調査

依頼機関：玉城村教育委員会

結 果：玉城村教育委員会に報告した。

高 良 松 一（充指導主事）

○琉球ガラス文献資料調査（琉球大学図書館）

期 間：昭和63年 9 月20日～21日

目 的：琉球ガラスの文献に関する調査

○琉球ガラス文献資料調査（県立図書館）

期 間：昭和63年10月12日～14日

目 的：琉球ガラスの文献に関する調査

○琉球ガラスの歴史と作品製作の調査（奥原硝子製作所）

期 間：昭和63年11月16日～20日

目 的：琉球ガラスの歴史についての調査

○琉球ガラスの製作方法（琉球ガラス村・共栄ガラス・宙吹ガラス工房）

期 間：平成元年 1 月25日～ 2 月10日

目 的：琉球ガラスの製作方法についての調査

○琉球の書跡に関する調査

期 間：平成元年 3 月25日～27日

目 的：林鴻年書跡の調査

富 島 壯 英（主査）

○与那国島の歴史調査

調査期間：昭和63年 5 月31日～ 6 月 8 日

依頼機関：沖縄県立博物館

○冊封使関係資料調査（平良市・石垣市・多良間村・竹富島）

調査期間：昭和63年11月14日～18日

依頼機関：沖縄県立博物館

○家譜調査

調査期間：昭和63年 9 月～ 2 月

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

○歴史の道調査（沖縄本島）

調査期間：昭和63年 4 月～平成元年 3 月

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

金 武 正 紀（主任専門員）

○喜友名東原遺跡発掘調査

期 間：昭和63年10月 7 日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：宜野湾市教育委員会

○喜友名東原遺跡発掘調査

期 間：昭和63年10月11日～12日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：宜野湾市教育委員会

○嘉門遺跡発掘調査

期 間：昭和63年10月20日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：浦添市教育委員会

○竹富島新里村遺跡の調査

期 間：昭和63年10月24日～28日

目 的：遺構の実測調査

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

結 果：平成元年度の発掘調査報告書に掲載

○今帰仁城跡出土の資料調査

期 間：平成元年2月15日～16日

目 的：考古資料の比較調査

依頼機関：沖縄県立博物館

結 果：沖縄県立博物館紀要第15号に報告

○与那国町・石垣市の考古資料調査

期 間：平成元年2月20日～23日

目 的：考古資料の比較調査

依頼機関：沖縄県立博物館

結 果：沖縄県立博物館紀要第15号に報告

津波古 聡（充指導主事）

○伊是名村文化財調査

期 間：平成元年2月13日～14日・3月25日～28日

依頼機関：伊是名村

目 的：伊是名村にある文化財の把握と調査作成

結 果：『伊是名村史』及び『文化財写真集』への掲載。また、「ふれあい民俗館」の
収蔵及び展示のための基礎資料。

千木良 芳 範（充指導主事）

○与那国島における動物相の調査（県立博物館総合調査）

期 間：昭和63年5月～平成元年1月

目 的：与那国島の陸上脊椎動物についての概況を把握する

依頼機関：沖縄県立博物館

○与那国島における真正クモ類調査

期 間：昭和63年 5 月～平成元年 1 月

目 的：与那国島の真正クモ類についての分布調査

○山原地域の側溝における小動物の落下について

期 間：昭和62年 7 月～昭和63年 7 月

目 的：林道に設置された側溝に落ち込んで死亡する小動物の概要を把握し、その保護のための情報を収集する

依頼機関：世界自然保護基金日本委員会 (WWF J)

○ダイトウオオコウモリ調査

期 間：昭和63年 7 月 1 日～平成元年 3 月31日

目 的：国指定天然記念物であるダイトウオオコウモリの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

成 果：調査の最終年度に報告書を作製する

○名護市動植物総合調査

期 間：昭和63年10月 1 日～平成元年 3 月31日

目 的：名護市の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関：名護市教育委員会

成 果：平成 2 年度にその成果を名護市天然記念物調査報告としてまとめる

大 城 學 (専門員)

○沖縄の神歌伝承活動調査

期 間：昭和63年 5 月～平成元年 3 月

目 的：八重山諸島の神歌調査

依頼機関：県教育庁文化課

結 果：沖縄の神歌 (II) —八重山諸島—報告書として刊行

○玉城朝薫の墓調査

期 間：昭和63年 6 月～平成元年 1 月

目 的：玉城朝薫の芸能について調査

依頼機関：浦添市教育委員会

結 果：玉城朝薫の墓調査報告書として刊行

○宜野座の京太郎調査

期 間：昭和63年 6 月～平成元年 1 月

目 的：京太郎の芸能について調査

依頼機関：宜野座村教育委員会

結 果：宜野座の京太郎報告書として刊行

○沖縄慶良間諸島における言語・文化・社会の総合的研究（科研費による調査）

期 間：昭和63年11月～平成元年3月

目 的：慶良間諸島の祭祀、古文書の調査

依頼機関：沖縄慶良間諸島調査委員会

結 果：慶良間諸島の文献資料集として刊行

○離島における文化調査

期 間：平成元年3月

目 的：伝統芸能の現状・課題、新しい地域文化創造への動き、文化活動の地域活性化へ果たす役割について調査

依頼機関：沖縄計画研究所

結 果：離島における特産品及び伝統文化振興に関する基礎調査報告書として刊行

○与那国島の民俗調査（沖縄県立博物館総合調査）

期 間：昭和63年6月、平成元年1月

目 的：与那国島の祭場と儀礼について調査

結 果：県立博物館総合調査報告書 IV —与那国島—として刊行

与那嶺 一 子（学芸員補）

○与那国島の染織調査

調査期間：平成元年3月2日～3日

依頼機関：沖縄県立博物館

○伊是名村文化財調査

調査期間：平成元年3月25日～27日

依頼機関：伊是名村

目 的：伊是名村にある文化財の把握と調査作成

結 果：『伊是名村史』及び『文化財写真集』への掲載

2 著作論文

上江洲 均

○「漁業」「諸職」「年中行事」「住い」「交通・交易」（『宜野座村史第3巻』）宜野座村 1989年3月

○「農業」（『西原町史第4巻』）西原町 1989年3月

○「信仰と祭祀」（『伊是名村史下巻』）伊是名村 1989年3月

○「沖縄の民具」「沖縄の民俗文化」 琉球大学放送大学講座7 1988年3月

知 念 勇

- 『沖縄城ものがたり』（共著）むぎ社 1988年6月
- 「沖縄貝塚時代の分化史」『沖縄の民俗文化』琉球大学放送公開講座7 1988年9月 琉球大学公開講座委員会
- 「南島先史時代の土器文化圏からみた宜野座村」『宜野座村史第3巻』宜野座村 1989年3月
- 「原始・古代の浦添」『浦添市史第1巻 通史』浦添市 1989年3月
- 「与那国島の遺跡」『県立博物館総合調査報告書 IV』沖縄県立博物館 1989年3月

日 越 国 昭

- 「辺野喜川上流における防風樹林帯の構造変化」 沖縄県立博物館紀要第15号 沖縄県立博物館 1989年3月
- 「糸数城跡城郭内の植物」 玉城村教育委員会に報告した 1989年3月

高 良 松 一

- 「琉球ガラス工芸の文化」（『沖縄県立博物館紀要』第15号 1989年3月）
- 「城間喜宏論・太っ腹のパワーと細やかさ」（脈同人 1989年6月）

富 島 壯 英

- 「歴代宝案」初回の編集とその背景（上・下） 『沖縄タイムス』 1988年8月12日・8月15日
- 冊封使・林鴻年の扁額 『県広報誌 沖縄』 No.159（1988年12月号）
- 「那覇・福州航路図」解説 『琉球新報』 1989年1月30日
- 「奉使琉球図」解説 『琉球新報』 1989年2月6日
- 「冊封使行列絵巻」解説 『琉球新報』 1989年2月20日
- 「ドゥナン」（与那国）語源考 『沖縄県立博物館総合調査報告書 IV 一与那国島』
- 沖縄県 『歴史資料保存機関総覧 一西日本一』改訂版 山川出版社 1989年
- 監修『沖縄文化財百科』 那覇出版社 1988年5月

金 武 正 紀

- 「沖縄の縄文時代住居 ―シメグ堂遺跡―」（『図説検証 原像日本5』旺文社 1988年5月）
- 『沖縄の城ものがたり』（共著）（むぎ社 1988年6月）
- 「ビロースクタイプ白磁碗について」（『貿易陶磁研究』No.8 日本貿易陶磁研究会 1988年9月）
- 「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」（『沖縄県立博物館紀要』第15号 1989年3月）

- 「高嶺遺跡の遺構」「琉球王府時代の遺構」(『宮城島遺跡分布調査報告』 沖縄県教育委員会 1989年3月)

津波古 聡

- <資料紹介>「田名宗經の木彫」『沖縄県立博物館紀要』第15号 沖縄県立博物館 1989年3月

千木良 芳 範

- 『沖縄の自然百科』(24) ハブのはなし 沖縄出版 1988年4月
- 「与那国島の陸上脊椎動物」『沖縄県立博物館総合調査報告書 IV —与那国島—』 沖縄県立博物館 1989年3月
- 「山原地域の側溝における小動物の落下について」 世界自然保護委員会助成研究報告 1989年1月

大 城 學

- 「竹富島のタニドゥル」(『沖縄の神歌』(II)—八重山諸島— 沖縄県教育委員会 1989年3月)
- 「石垣市字川平のシチィ」(『沖縄の神歌』(II)—八重山諸島— 沖縄県教育委員会 1989年3月)
- 「玉城朝薫の芸能」(『玉城朝薫の墓調査報告書』 浦添市教育委員会 1989年3月)
- 「京太郎について」(『宜野座の京太郎』 宜野座村教育委員会 1989年3月)
- 「慶良間諸島の年中行事」(『慶良間諸島の文献資料集』 沖縄慶良間調査委員会 1989年3月)
- 「沖縄芸能と太鼓(序)」(『沖縄県立博物館紀要』第15号 沖縄県立博物館 1989年3月)
- 「与那国島の祭場と儀礼」(『県立博物館総合調査報告書』IV 沖縄県立博物館 1989年3月)

与那嶺 一 子

- 「与那国島の織物概観」『県立博物館総合調査報告書』IV 沖縄県立博物館 1989年3月

VI 収蔵資料

1 収蔵資料現在高

平成元年 3 月 31 日現在

分 類		受理次第	購 入	寄 贈	収 集	移 その 管 他	小 計	総 計
自 然 史	地 質		643	438	7	17	1,105	7,750
	動 物		926	4,375	467	12	5,780	
	植 物		15	850			865	
美 術 工 芸	絵 画		63	506	1		570	7,479
	書 跡		151	247	40	3	441	
	彫 刻		4	103	138		245	
	陶 磁 器		421	3,122	251	490	4,284	
	漆 器		220	220	156		569	
	染 織		1,041	293	9		1,343	
歴 史 資 料			408	3,332	285	84	4,109	4,109
考 古 資 料			9	943	755		1,707	1,707
民 俗 資 料			540	2,349	574	73	3,536	3,536
総 計			4,441	16,788	2,683	679	24,581	24,581

2 昭和63年度収蔵資料および目録

昭和63年度収蔵資料

平成元年 3 月 31 日現在

分 類		受理次第	購 入	寄 贈	収 集	移 その 管 他	小 計	総 計
自 然 史	地 質			1			1	48
	動 物		31	1			32	
	植 物		15				15	
美 術 工 芸	絵 画			224			224	259
	書 跡		4	2			6	
	彫 刻							
	陶 磁 器			5			5	
	漆 器			11			11	
	染 織		1	12			13	
歴 史 資 料			4	15			19	19
考 古 資 料				26				26
民 俗 資 料				33			33	33
総 計			55	330			385	385

昭和63年度収蔵資料目録

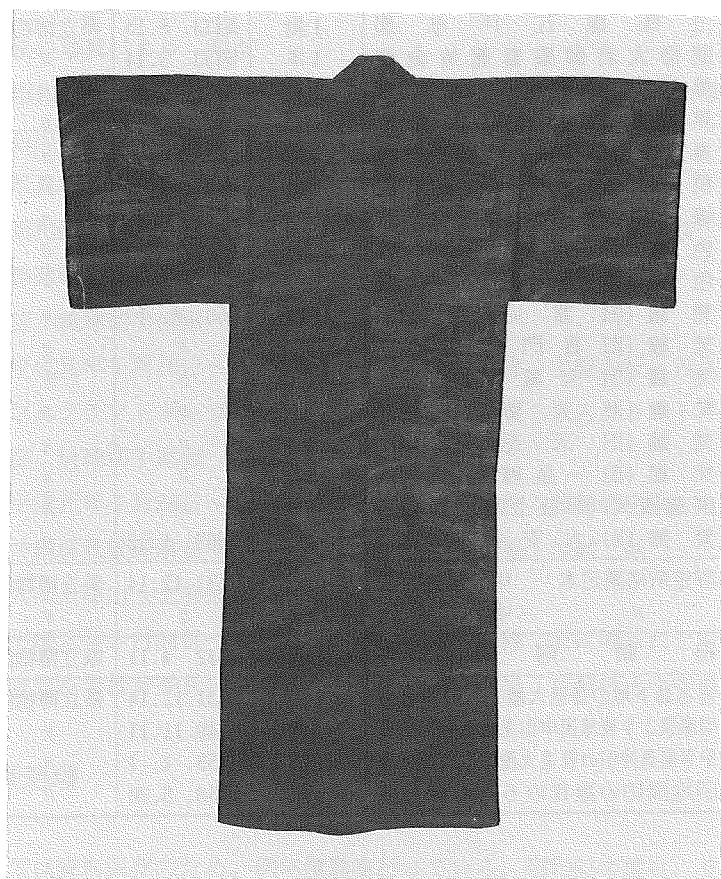
寄贈の部

(昭和63年4月1日～平成元年3月31日まで)

分 類		品 名	数量	寄 贈 者 名	住 所
自然	地 質 動 物	珪 化 木	1	嵩 原 安 勝	那 覇 市
		貝類コレクション	1括	友 利 克	浦 添 市
美 術 工 芸	書 跡	琉 球 紙	1括	勝 富美江	静 岡 県
	〃	林鴻年扁額「静観自得」	1	金 城 松 清	那 覇 市
	陶 磁 器	バナリ焼壺	1	勝 富美江	静 岡 県
	〃	飴釉掛分飛鉋渡名喜瓶他、3点	4	富 村 盛 明	那 覇 市
	漆 器	朱漆芭蕉文堆錦銘々皿他、9点	10	広 木 幸 子	東 京 都
	〃	朱漆山水樓閣人物七宝繫箔絵提重	1	保 勇	鹿 児 島 県
	染 織	麻紺地宮古上布着物他、3点	4	広 木 幸 子	東 京 都
	〃	木綿浅地総絊上衣他、2点	3	松 下 喜 尚	ブラジル
	〃	絹白地緯縞文様上衣他、2点	3	永 野 竹 乃	神 奈 川 県
	〃	紅型型紙他、1点	2	吉 戸 直	那 覇 市
考 古 資 料		土器壺と宋元通寶他、23点	24	翁 長 良 明	那 覇 市
		ギリシャの赤瓦	2	仲 地 洋	浦 添 市
歴 史 資 料		天保通寶	5	保 勇	鹿 児 島 県
		百円紙幣	1	村 本 信 子	西 原 町
		2 \$ 紙幣他、1点	2	比 嘉 スミ子	那 覇 市
		2 \$ 紙幣	1	新 城 清 一	具 志 川 市
		10円札	1	翁 長 良 明	那 覇 市
		源遠流長（林鴻年書拓本）他、4点	5	合 屋 末千代	福 岡 県
民 俗 資 料		護 他、1点	2	神 山 克 明	福 岡 県
		壺型厨子甕他、8点	9	屋 嘉 宗 徳	那 覇 市
		馬の鞍他、8点	9	大 城 昌 栄	中 城 村
		三 線 胴	3	桃 原 栄 仁	南 風 原 町
		壺型厨子甕	1	金 城 盛 一	那 覇 市
		サギゾーキー	1	徳 山 ミ ヨ	那 覇 市
		コカコーラビン	1	翁 長 良 明	那 覇 市
		三線「マテーシ千鳥」他、6点	7	又 吉 真 也	那 覇 市

購入の部

分 類			品 名	数量
美術 工芸	書	跡	汪楫書卷子	1
	〃		尚慎書軸物	1
	〃		尚傑書軸物	1
	〃		中山鄭嘉謨書（対句）	1
	染	織	麻紺地宮古上布着物	1
自然	動	物	剝製標本	31
	植	物	イタジイ原木展示標本	10
	〃		植物材標本	5
歴 史 資 料			「百姓官話」	1
			「沖縄地方制度」（沖縄地方制度改正の件）	1
			「沖縄地方制度改正案」	1
			「沖縄旧慣地方制度」（沖縄県旧慣租税制度）	1



3 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

平成元年 3月31日現在

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工 芸	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県
〃	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)	} 3口	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
〃	梵 鐘 (旧円覚寺楼鐘)				

県指定文化財有形文化財

平成元年 3月31日現在

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1軀1枚	昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵 画	絹本着色花鳥図(股元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図(股元良筆)	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図(股元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱崔年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸	三味線江戸与那	1挺	昭33. 8.15	県立博物館	沖縄県
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3.14	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	色嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧霊応寺鐘)	1口	60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天尊御鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧一品種権現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠(旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1.12	〃	〃
典 籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
〃	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書 跡	程 順 則 の 書	1巻	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
古 文 書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
〃	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49.11.11	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3.20	〃	〃

IV その他の活動

1 資料貸出

- ① 考古：萩堂式土器 2点
期間：昭和63年4月1日～平成元年3月31日
主催：国立歴史民俗博物館
名称：日本のあけぼの
会場：国立歴史民俗博物館
- ② 美術工芸及び民俗：坐楽并躍之図他 2点
期間：昭和63年4月18日～7月15日
主催：奄美歴史民俗資料館
名称：琉舞の世界・組踊りの世界
会場：奄美歴史民俗資料館
- ③ 美術工芸：琉球切手原画他 173点
期間：昭和63年9月23日～12月14日
主催：(財)沖縄県観光開発公社
名称：琉球切手に見る戦後世相史展
会場：沖縄県立海洋博記念沖縄館
- ④ 美術工芸：謝壇万寿寺石獅子他 7点
期間：昭和63年10月5日～平成2年10月4日
主催：沖縄県立平和祈念資料館
名称：常設展
会場：沖縄県立平和祈念資料館
- ⑤ 戦前戦後の写真パネル 90点
期間：昭和63年10月20日～11月17日
主催：石川市教育委員会
名称：昔いしかわの写真展
- ⑥ 戦前の写真パネル 11点
期間：昭和63年11月5日～11月6日
主催：勝連町教育委員会
名称：勝連町文化祭
- ⑦ 美術工芸：琉球切手原画 22点
期間：平成元年1月10日～1月22日
主催：びんクラフトギャラリー
名称：上野の杜・五人展
会場：びんクラフトギャラリー
- ⑧ 美術工芸：琉球切手原画 5点
期間：平成元年1月26日～2月6日
主催：沖縄郵政管理事務所
名称：琉球切手展
会場：沖縄三越
- ⑨ 考古：大山貝塚出土土器他 16点
期間：平成元年3月24日～3月28日
主催：宜野湾市教育委員会
名称：土に埋もれた宜野湾
会場：宜野湾市立中央公民館

2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、例年燻蒸を行っている。昭和63年度は、6月27日(月)から7月1日(金)まで、展示室も含めた大がかりな燻蒸を実施した。従来行なっていた1階収蔵

庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・扁額をメチルプロマイドによって燻蒸し、その他事務室、講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行なった。毎年行われている展示替えは、展示室が燻蒸されることから、事前に行われた。

3 沖縄県博物館協会

昭和63年度の沖縄県博物館協会の総会並びに研修会が、5月13日(金)、沖縄市郷土博物館にて開催された。本部・今帰仁をはじめとして石垣・竹富町の館園から、多くの参加があり、参加者数はこれまでの最多を記録する99人であった。総会では、昭和63年度事業、九州博物館協議会の研修会の受け入れ、次期総会開催地等について審議決定された。総会に引き続いての研修では、沖縄市郷土博物館の山田館長から「沖縄市郷土博物館の現状と課題」と題する報告があり、その後比嘉貞信氏による「基地の町ーコザの移り変わり」、照屋林助氏による「ワタプーショウからみたコザまんぐらの話」と題した講演があった。講演終了後、沖縄市内の史跡を見学し日程を終わった。

秋の第2回研修会は10月12日(木)~13日(金)の日程で、名護市市民会館で催された。これは九州博物館協議会の研修会との合同開催であった。初日の午前には琉球大学理学部の西平守孝教授による「サンゴ礁と沖縄の海」と題した講演、午後からは分科会、全体会と続き、活発な討議がなされた。2日目は、名護博物館を皮切りに北部の施設を巡る現地研修が実施された。

今年度の博物館協会の事業の大きな目玉は、「中国博物館めぐりの旅」の企画であった。21名の会員が参加し、中国各地の博物館や史跡を中心とした10泊11日の日程が組まれ、大変好評であった。

4 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、昭和55年「県立博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかること」を、会の目的として結成された。県立博物館の事業に積極的に参加するだけでなく、独自の講演会や県内各地の史跡、伝統工芸所などの見学などを行ってきた。また、昭和60年度からは、海外研修旅行も実施され活動内容も充実してきた。当初は30名足らずの会員だったが年々増加し、昭和63年度は230名を突破した。

昭和63年度に実施された友の会事業は次のとおりである。

① 講演会

「常設展示解説会歴史展示室(考古)」・昭和63年7月16日(土)・講師：知念 勇学芸課長・参加者17名

「沖縄文化に占める三線の役割」・11月13日(日)・講師：宜保栄治郎・参加者20名。

会員発表会・平成元年3月4日(土)・題目と発表者：「沖縄の毒ヘビとその咬傷について」新城安哲、「歴史サークルについて」阿波根直孝、「粟国島研修旅行で感じたこと」赤嶺貞義・参加者28名。

② 研修旅行など

離島めぐり「粟国島研修旅行」・昭和63年6月18日～19日・参加者33名。

ヤンバルの自然観察会「西銘岳の自然」・9月4日(日)・講師：新城安哲（沖縄県公害衛生研究所研究員）、千木良芳範（沖縄県立博物館学芸員）、日越国昭（沖縄県立博物館教育普及課長）・参加者29名。

「首里城周辺めぐり」・12月10日(土)・講師：宮里朝光・参加者26名。

③ 発行事業

機関誌「博友」・会報「赤い瓦」、「沖縄の織物」・「ヤンバルの自然展」図録・「三線名器100挺展」図録・「小学生のための博物館学習ノート」を沖縄県立博物館より許可を得て複製発行。

④ その他



粟国島研修旅行

VIII 日 誌 抄 (昭和63年4月1日～平成元年3月31日)

- 4月1日 人事異動
- 5日 博物館友の会運営委員会
- 11日 「ヤンバルの自然」展示指導委員会
社会教育機関連絡会議 (教育庁5階会議室)
- 12日 沖縄県博物館協会理事会
ボン大学 (ドイツ) 日本文化研究所、C・エンゲマン氏来館
- 13日 染織家・新井淳一氏来館
- 14日 教育機関合同会議 (青年会館)
税務大学校長・田中誠二氏来館
元NHKアナウンサー・鈴木健二氏来館
- 15日 日本民芸協会一行来館
- 20日 首里城正殿予備設計委員会、18名来館
- 22日 タイ国チェンマイ大学医学部長来館
日本民芸協会、4名来館
- 23日 鹿児島経済大学事務局長・栄喜久元氏来館
- 24日 博物館友の会「歴史サークル」首里及び周辺地域の史跡見学
- 25日 三線鑑賞会 (当館会議室)
- 26日 厚生省国民健康保険指導室長・梅沢是則氏来館
博物館友の会評議委員会
- 28日 九州地区少年自然の家所長一行来館
- 30日 第161回文化講座「琉球と東南アジアの交流史」講師：高良倉吉氏 (浦添市立図書館長)
鹿児島大学教授・下野敏見氏来館
- 5月10日 「新収蔵品展」開催 (22日まで)
社会教育行政連絡会議 (青年会館)
沖縄開発庁振興局振興第4課長・池田登氏来館
- 11日 神奈川県参事・五十嵐力氏来館
華閩旅遊有限公司・雷禮忠、陳麗君氏来館
- 13日 沖縄県博物館協会総会・研修会 (沖縄市立郷土博物館)
- 16日 博物館友の会総会・懇親会
- 17日 九州博物館協議会総会出席のため館長出張 (20日まで)
- 19日 長崎県総務部長・吉次邦夫氏来館
東京都議会議員・大木田守氏来館
- 21日 第162回文化講座「パナリ焼について」講師：大嶺実清氏 (県立芸大助教授)

- 23日 消防点検（沖縄電気保安協会）
- 24日 最高裁判所判事・藤島氏来館
- 25日 生涯教育推進会議（青年会館）
- 26日 移動博物館の梱包作業
- 28日 移動博物館の展示資料搬出
三線鑑賞会
- 31日 大蔵省主計官・若松氏来館
- 6月1日 津山工業高等専門学校長・伊藤俊夫氏来館
- 2日 ガールスカウト日本連盟総主事・諸節トミエ氏来館
- 3日 移動博物館開催（5日まで、与那国島）
中国美術家協会常務理事・丁竹氏来館
- 4日 博物館友の会「歴史サークル」勉強会（会議室）
- 11日 東京芸大名誉教授・渡辺高之助氏来館
第163回文化講座「沖縄川の魚の話」講師：幸地良仁氏（南風原高校教諭）
- 12日 名古屋大学教授・渡辺誠氏来館
- 13日 博物館友の会評議員会
電気点検（沖縄電気保安協会）
館内清掃
- 15日 「ヤンバルの自然」展示指導委員会
ハワイ沖縄県人会長山里氏夫人、県知事西銘氏夫人来館
- 20日 第3室（美術・工芸）展示替え
- 25日 熊本市立博物館友の会一行（23名）来館
- 27日 全館燻蒸（7月1日まで）
- 7月1日 宮城県美術館副館長・富田文洋氏来館
- 2日 「ヤンバルの自然」展示指導委員会
- 5日 与那国民俗資料館・池間苗氏来館
- 6日 衆議院特別委員会第一調査室長・諸岡昭二氏来館
- 7日 芝浦工業大学教授・石川洋美氏来館
- 11日 消防訓練
- 13日 博物館学実習生7人受入れ（22日まで）
駐日スイス大使・ロジェー・ペアー氏来館
- 14日 感謝状（故玉那覇正吉氏夫人・吉子さんへ）
- 17日 香川県善通寺市議一行来館
- 23日 鹿児島少年の船一行来館
博物館友の会「碑文研究」
大正大学・多田孝文氏来館

- 24日 全国初任者洋上研修一行(325人)来館
- 25日 石綿撤去工事のため休館(31日まで)
- 31日 第164回文化講座「親子民具教室」講師：外原淳氏
- 8月1日 都立大助教授・渡辺欣雄氏来館
- 3日 韓国青年一行(36人)来館
- 4日 自治省税務局固定資産税課長・小川徳治氏来館
竜谷女子大教授・橋本千栄子氏来館
沖縄・中国爬虫両生学会シンポジウム中国代表団一行(11名)来館
- 7日 沖縄開発事務次官・塚越則男氏来館
- 8日 「ヤンバルの自然」展示準備のため休館(11日まで)
- 11日 明治大学教授・稲垣栄三氏来館
跡見学園女子大教授・植松明石氏来館
- 12日 特別展「ヤンバルの自然」開会式(10月2日まで)
- 13日 第165回文化講座「ヤンバルの自然」解説会、講師：千木良芳範氏(当館充指導主事)
- 15日 法政大学教授・山本弘文氏来館
- 21日 厚生省病院管理局長・針谷至忘氏来館
- 30日 大阪天満宮宮司・寺井種茂氏来館
- 31日 三線鑑賞会
- 9月3日 日本赤十字社名誉社長・林敬三氏来館
- 4日 博物館友の会、ヤンバルの自然観察会
- 7日 三線鑑賞会
沖縄県博物館協会主催 中国研修旅行(21名)出発
- 8日 中国山東大学歴史系副教授・蔡鳳書氏来館
スミソニアン研究所・ブルース・D・スミス氏来館
奈良国立文化財研究所・松井章氏来館
明治大学教授・一泉知永氏来館
- 10日 第166回文化講座「ヤンバルの天然記念物」講師：池原貞雄氏(琉球大学名誉教授)
大城昌栄氏(中城村屋宜)スキその他の資料の寄贈を受ける
- 17日 「三線名器100挺展」展示指導委員会
- 18日 「21世紀のための友情計画」太平洋混成グループ(28名)来館
- 19日 第30次南極地域観測隊長(国立極地研究所教授)・江尻全機氏来館
- 21日 沖縄開発庁沖縄総合事務局首里出張所長・加藤真司氏来館
住宅都市整備公団理事・間瀬延幸氏来館
- 22日 琉球新報社事業局長・神山富夫氏来館

- 24日 第167回文化講座「久米島の史跡めぐり」講師：上江洲均氏（当館副館長）、知念勇氏（当館学芸課長）、25日まで
- 27日 福建師範大学教授・劉恵孫氏、同大副教授徐恭生氏来館
- 30日 三線鑑賞会
- 10月4日 展示替え（自然史展示室、2階ロビー）
- 5日 国立公文書館次長・月岡豊和氏来館
東京都杉並区教育委員一行（4名）来館
- 7日 参議院議員・岩上二郎氏来館
全国歴史資料館協議会一行（90名）来館
文部省大臣官房審議官・福田昭昌氏来館
- 8日 鄧小平氏の娘来館
- 12日 琉中学術会議一行（劉寧顔氏他）来館
台湾大学教授・宋文薫氏来館
- 13日 九州博物館協議会総会（於名護市、14日まで）
台湾中央研究院・張炎憲氏一行（5名）来館
鹿児島県教育庁文化課長・吉井浩一氏来館
- 15日 第168回文化講座「湧田窯の発掘調査について」講師：安里嗣淳氏（県教育庁文化課埋蔵文化財係長）
- 20日 千葉県議会議員一行（15名）来館
- 21日 経済企画庁・栗林審議官来館
- 22日 保勇氏（鹿児島県）「朱漆提重」1点、寄贈を受ける
- 25日 大阪大学文学部国史研究室一行来館
- 26日 「三線名器100挺展」展示指導委員会
- 29日 上智大学教授・垣花秀武氏来館
- 31日 チモシー・ジョイナー博士夫妻来館
- 11月1日 特別展「三線名器100挺展」開会式、27日まで
- 3日 文化庁文化財調査官・田中英機氏来館
日本民俗芸能協会常務理事・福田一平氏来館
- 5日 第170回文化講座「三線名器100挺展」展示解説会、講師：宜保栄治郎氏（県文化課長）、大城學氏（当館学芸員）
- 6日 特別展「三線名器100挺展」試演会及びシンポジウム
- 7日 消防点検（沖縄保安協会）
- 12日 三線鑑定会
中国人体科学学会常務副理事長・陳信氏、婦産科主任医師・闕明礼氏来館
- 13日 三線鑑定会
博物館友の会講演会「沖縄文化に占める三線の役割」講師：宜保栄治郎（県文

化課長)

- 15日 文化庁記念物課文化財保護調査官・和田勝彦氏来館
- 17日 大阪府議会議員一行(17名)来館
- 18日 東京工業大学長・田中郁三氏来館
- 19日 三線鑑定会
- 20日 三線鑑定会
- 21日 三線鑑賞会
- 22日 文部省初等中等局助成課長・大槻秀明氏来館
国立劇場主任専門員・西角井正大氏来館
- 25日 博物館協議会
- 26日 三線鑑定会
- 27日 三線鑑定会
- 28日 三線鑑賞会
- 29日 名瀬市教育委員会委員長・田原初雄氏来館
国会図書館司書監・石山洋氏来館
- 12月1日 九州管区警察局長・鳴海国博氏来館
- 3日 第171回文化講座「琉球の彫刻」講師：西村貞雄氏(琉球大学教授)
- 8日 祥雲寺住職・岡本恵昭氏来館
- 20日 博物館友の会運営委員会
日本博物館協会からの表彰状を玉那覇吉子氏へ伝達
- 23日 沖縄開発庁振興局振興第1課長・百武伸茂氏来館

平成元年

- 1月20日 「風の子」劇団一行(14名)来館
- 21日 第172回文化講座「建築家がみた首里城正殿」講師：福島清氏
- 22日 中日友好協会一行(5人)来館
- 28日 沖縄協会・沖縄平和公園建設協会会長・佐藤朝生氏来館
- 2月2日 国立奈良文化財研究所長鈴木嘉吉氏来館
- 4日 教育ボランティア研修会、研修生6人
- 5日 経済企画庁局長・海野恒夫氏来館
- 7日 消防訓練
蚕糸砂糖類価格安定事業団理事長・二瓶博氏来館
- 8日 沖縄県博物館協会編集委員会
中華人民共和国駐福岡総領事館総領事・郭臺氏ほか15名来館
- 13日 ホール外壁補修工事、28日まで
- 14日 横須賀市自然史博物館、同人文博物館長・田辺悟氏来館
- 17日 台湾台北中校長一行(58名)来館

- 18日 第173回文化講座「拓本教室」講師：崎間麗進氏、上江洲敏夫氏
19日 ソウル大学教授・安輝濬氏来館
21日 平和資料収集委員筑波大教授・大浜徹也氏他 7 人来館
22日 瀬戸内海歴史民俗資料館長・十川泉氏来館
23日 南太平洋漁業技術者研修者一行（13名）来館
25日 博物館友の会歴史サークル
27日 三線鑑賞会
3月4日 博物館友の会、会員発表会
5日 教育ボランティア研修会
6日 三線鑑賞会
9日 日本銀行理事・佃亮二氏来館
11日 博物館友の会運営委員会
13日 国立教育研究所長・鈴木勲氏来館
14日 熊本県伝統工芸館・渡辺誠司氏来館
19日 中国文化部遊琪氏外 5 名来館

IX 関係条例規則抄録

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日) 条例第24号)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日) (教育委員会規則第2号)

最終改正 平成元年3月17日教育委員会規則第2号

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号)

最終改正 平成元年3月31日教育委員会規則第4号

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下同じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかななければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法(昭和23年法律第186号)第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当 直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文 書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不適當であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報 告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補 則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書		平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		
申込者		
住所		氏名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。		
記		
1	種別	
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	資料の所在地	
7	時価見積額	
8	寄贈の理由	

受諾書	
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
平成 年 月 日	沖縄県立博物館長 印

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申込書		平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		
申込者		
住所		氏名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。		
記		
1	種別	
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	資料の所在地	
7	寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書		平成 年 月 日
殿		
沖縄県立博物館長		㊤
平成 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。		
1 種 別		
2 作者名		
3 作品名		
4 製作年月日		
5 附属品		
6 受託期間	平成 年 月 日から	平成 年 月 日まで
7 備 考		

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書		平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿		
申請者氏名		㊤
電 話		
下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。		
記		
1 使用者	団 体 名 及 び	
	代表者名	㊤ 職業 ()
	住 所	
	電 話	
2 使用目的		
3 使用する施設：1 ホール	2 臨時陳列室	
4 使用する日時及び期間	自：平成 年 月 日 午 時 分 ()	
	至：平成 年 月 日 午 時 分 日間	
5 予定参加人員	人	
6 その他必要な資料 (プログラム等)		

許 可 書	
平成 年 月 日	月 日付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。
沖縄県立博物館長 ㊤	

○沖縄県立博物館協議会規則(昭和47年10月2日)
教育委員会規則第29号)

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委 員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会 議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶 務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑 則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 昭和62年4月1日条例第24号

(趣 旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰 則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和62年4月1日条例第24号抄)

この条例は、昭和62年4月1日から施行する。

別表第1(博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.22

平成元年7月15日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

〒903 TEL: 0988-84-2243

86-4353

印刷 文進印刷株式会社

住所 沖縄県那覇市上間567

TEL: 0988-55-2323(代)